令和２年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会
第３回若葉区役所部会議事録

１　日時：（第１日）令和２年１０月２２日（木）１３：３０　～　１７：００
（第２日）令和２年１０月２９日（木）　９：３０　～　１２：００

２　場所：（第１日）若葉保健福祉センター　３階　大会議室
（第２日）都賀コミュニティセンター　１階　集会室

３　出席者：
（１）委員
吉田　恵美委員（副部会長)、秋元　稔委員、関　寛之委員、髙山　修委員
（２）事務局
筒井若葉区地域振興課地域づくり支援室長、西村主査、三ツ目主任主事

４　議題：
（１）形式的要件審査（第１次審査）及び提案内容審査（第２次審査）の概要について
（２）千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について
（３）今後の予定について
（４）その他

５　議事概要：
（１）形式的要件審査（第１次審査）及び提案内容審査（第２次審査）の概要について
形式的要件審査（第１次審査）及び提案内容審査（第２次審査）の概要及び審査の流れについて、事務局より説明した。
（２）千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について
まず、応募があったすべての団体について、事務局において第１次審査における審査項目を審査した結果、応募資格の各要件を満たしていること、また、失格事由のいずれにも該当していないことを報告した。
次に、各応募者へのヒアリングを実施し、採点、意見交換を経て、指定管理予定候補者とすべき者を「株式会社千葉マリンスタジアム」、第２順位を「アクティオ株式会社」、第３順位を「Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体」として選定することを決定した。
（３）今後の予定について
今後のスケジュールについて、事務局から説明した。
（４）その他
議事録の公開について、事務局から説明した。

６　会議経過：
【第１日】
○筒井地域づくり支援室長　　委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまより、令和２年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第３回若葉区役所部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、若葉区地域振興課地域づくり支援室の筒井です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回、都賀コミュニティセンターの次期指定管理者について、５者の応募がありましたので、本日と来週２９日の開催とさせていただきたいと存じます。２日間にわたりご足労をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

本日及び来週の会議でございますが、お手元のファイルの参考資料２「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」に定める非公開事項に該当することから、すべて非公開といたします。

また、本日も、新型コロナウイルス感染症対策として、窓を開けて、休憩ごとに換気を行います。委員の皆様におかれましても、マスクの着用、手洗い、手指消毒などにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

それでは、委員の皆様のご紹介ですが、前回の部会から変更はございませんので、恐れ入りますが、資料２「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会若葉区役所部会委員名簿」をもちまして、ご紹介に代えさせていただきたいと存じます。

そして、本日及び２９日において、稲垣部会長から体調不良により欠席されるとの事前連絡を受けております。部会長不在となりますので、参考資料１「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」第９条及び第１１条の規定により、この２日間の審議について、恐れ入りますが、吉田副部会長に会長代理をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、吉田委員、議長席にご移動をお願いいたします。

○吉田副部会長　　本日と来週、よろしくお願いいたします。

５者と多いので、皆さんのご協力で、時間をしっかり守りながら進めてまいりたいと思っております。

○筒井地域づくり支援室長　　ありがとうございます。

続きまして職員の紹介をさせていただきます。前回に引き続き、若葉区地域振興課地域づくり支援室の職員でございます。

西村主査でございます。

三ツ目主任主事でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず、「次第」、「席次表」、「委員の皆様からの事前質問に対する各申請者からの回答」、「各申請者のヒアリング出席予定者一覧表」が机の上にございます。おそろいでしょうか。

次に、本日の会議資料として、すでに委員の皆様には事前配布の上、ご確認をいただいておりますが、資料１から参考資料８までをまとめて、「第３回若葉区役所部会資料」、水色のファイルです。それから、各申請者からの「指定申請書類」及び「提案書」を、それぞれファイルにつづってご用意しております。万が一、不足等ございましたら、途中でもお知らせいただければと思います。

なお、事前に皆様にお配りしたものから、一部内容変更により、本日差替え版を机上配

布させていただいているものがございますので、確認させていただきます。
まず、机上配布の水色のファイルの資料３－２です。応募資格コの欄でございます。暴力団排除条例に関するところでございますが、そちらについては、「市民総務課による一括確認中」と以前なっていたのですけれども、１０月１９日に警察署からの回答がありまして、全申請事業者について「該当なし」との回答でございましたので、すべて「○」に修正をしております。
また、事前質問の回答として、「千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体」について、指定管理料の計算誤りがあったとのことで、同じ資料の失格事由アのところに記載されている金額を修正してございます。
次に、資料３－４、「採点表」でございますが、こちらにつきましては、当日審査用のものを、改めて別途Ａ３の用紙にて、机の上に置いてありますけれども、既に実施された他の部会での意見を参考に、採点誤りが起きないように、書式を若干改良しておりますので、よろしくお願いいたします。
皆様に既にお配りした「事前採点表」はあくまで参考としつつ、本日は、この当日用の「採点表」を用いて、各事業者の採点をお願いしたいと存じます。よろしいでしょうか。
（なし）
○筒井地域づくり支援室長　　それでは続きまして、会議の成立について、ご報告いたします。
本日、５名の委員のうち４名、過半数の出席がありますので、「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」第１１条第７項において準用する第１０条第２項に基づき、会議は成立いたしております。
それでは、これより、議事に入らせていただきます。
これからの議事につきましては、進行を本日の議長、吉田委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。
○吉田副部会長　　それでは、「次第」に従いまして、議事を進行してまいります。ご協力よろしくお願いいたします。
資料１に「進行表」が入っていますが、今回５者と多くございます。しかしながら、公平を期すために、なるべくタイムスケジュールどおりに、それぞれ説明の１０分、質疑応答の２０分と仮採点の５分を、守りながら進めさせていただければよろしいのかなと考えておりますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。
では、議題１の「形式的要件審査（第１次審査）及び提案内容審査（第２次審査）の概要について」に入らせていただきます。
まず、事務局より形式的要件審査の概要、提案内容審査の審議方法及び具体的な審議の流れについて、ご説明をお願いします。
○地域づくり支援室職員　　それでは、説明させていただきます。
はじめに、形式的要件審査（第１次審査）の概要についてご説明いたします。
形式的要件審査は、「募集要項」に定める応募資格の各要件をすべて満たしているか、また、失格事由のいずれにも該当するものでないかについて、申請者から提出された書類により審査を行うものでございます。
本日、机上にお配りしております、差替え後の資料３－２をご覧いただければと思いま

す。こちらのＡ３のものです。
千葉市若葉区都賀コミュニティセンターの応募資格の各要件及び失格事由ですが、まず、応募資格としまして、「ア　法人その他の団体であること。」など、１０項目ございます。
逆に、失格事由としまして、「ア　募集要項に定めた応募資格・要件が備わっていないとき。」など、全部で８項目ございます。
これらの応募資格及び失格事由について審査した結果が、表の右側になっております。応募資格を満たしていれば「○」、そもそも該当とならない場合は「－」で記載しております。また、失格事由については、該当するものでなければ、逆に「×」の記載をしております。
審査結果については後ほどご説明いたしますけれども、この形式的要件審査を通過した者のみが、提案内容審査（第２次審査）へ進むことができることとなっております。
続きまして、提案内容審査（第２次審査）の審議方法及び具体的な審議の流れについて、ご説明いたします。
まず、審議方法ですが、申請者から提出された「提案書」の記述内容等について、委員の皆様に、資料３－３「選定基準」に示す「採点基準」に従って、各審査項目を評価及び採点していただきたいと存じます。
そして、委員の皆様が、審査項目ごとに算出した得点の平均点の総合計をもって、各申請者の得点としまして、申請者の順位を決定していきます。
次に、審議の流れについてですが、資料１「第３回若葉区役所部会進行表」の第１日をご覧ください。
「進行表」の「（２）千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について」と書かれたところの下で、「①一部審査項目の採点結果について報告」とありますけれども、まず、我々事務局から、公募開始から形式的要件審査までの経過及び応募状況と、形式的要件審査の結果についてご報告いたします。
続きまして、申請者ごとにヒアリングを実施していきますが、ヒアリングの前に、お手元の資料３－４「採点表」のうち、事務局であらかじめ採点した項目についてご報告いたします。
その次に、「団体の経営及び財務状況」について、本日は議長もお務めいただいておりますけれども、公認会計士の吉田委員より、計算書類等に基づき、ご説明をお願いしたいと存じます。
財務状況等のご説明の後、申請者に入室していただきまして、ヒアリングを実施します。ヒアリングですけれども、最初に、申請者から本日の出席者の紹介を含めまして、提出した「提案書」について、１０分以内で説明をしていただきます。なお、各ヒアリング出席予定者は、机上配布している一覧表のとおりでございます。各団体について、５名までとしております。
その１０分が終わりましたら、委員の皆様から２０分間の質疑応答を行っていただきますので、申請者へのご質問がある場合には、この時間にご発言をお願いいたします。なお、２０分が経過しましたら、申請者には退室をしていただきます。
先ほど吉田委員もおっしゃいましたけれども、申請者間の公平性の観点から、ヒアリング時間につきましては、１者につき３０分を超えないこととといたします。私が時間を計り

まして、事業者からの説明、それから質疑応答、それぞれ残り１分になりましたら、ベルの音で、終了時間になりましたらアラームで合図をいたしますので、よろしくお願いいたします。

申請者が退室しましたら、５分程度ですけれども、お時間を取りますので、委員の皆様には、採点をお願いいたします。

その後、次の申請者に入室していただき、それ以後、ヒアリングと採点を繰り返すという流れになります。本日は時間の関係で、４者のヒアリングが終了した時点で終了とさせていただきます。来週２９日に、残りの１者のヒアリングを実施しまして、すべての申請者のヒアリングが終了しましたら、１５分程度お時間をお取りいたしますので、すべての申請者の採点について、再度ご確認いただきまして、「採点表」を確定させていただきたいと存じます。

その採点が終わりましたら、事務局で「採点表」を回収して集計をいたしますので、それが終わったら、皆様に「集計表」をお配りして、結果を発表いたします。

この集計結果をもって、部会として申請者の順位を決定していただき、選定理由などについて意見交換を行っていただいて、部会としての意見をまとめていただきたいと存じます。

なお、採点結果で、今回の場合ですと３名以上ということになりますが、過半数の委員が「Ｄ」の評価をした項目がある場合、又は、１人以上の委員が「Ｅ」の評価をした項目がある場合には、その申請者を失格とするかどうかについても協議していただくこととなります。

すべての審査が終了しましたら、「採点表」及び「集計表」につきましては回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明について、何かご質問はございますか。

（なし）

○吉田副部会長　　一つ確認ですが、こちらの「採点表」は、本日、一度採点したものは、事務局に預かっていただいて、また来週お配りいただけるという理解でよろしかったでしょうか。

○地域づくり支援室職員　　そうです。今日は一度回収しまして、その状態のまま一切、手をつけずに、来週、皆様の元にお戻しいたします。

○吉田副部会長　　もう一度、５者を改めて、調整も含めて最終的な結論をすることも可能ということですね。

○地域づくり支援室職員　　そうです。それは来週、その時間に実施していただくことは可能です。

○吉田副部会長　　分かりました。

ほかに質問はございますか。

（なし）

○吉田副部会長　　それでは、次に議題２「千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について」に移ります。

それでは、事務局よりご説明をお願いします。
○地域づくり支援室職員　　それでは、私から説明させていただきます。
はじめに、前回、７月６日に実施しました第２回若葉区役所部会の後から、今日に至るまでの公募の経過について、ご報告いたします。
まず、公募についてですが、７月２７日、市のホームページに「募集要項」等を掲載して、募集を開始いたしました。
次に、８月３日に申請予定者を対象として、都賀コミュニティセンター現地にて、「募集要項」等に関する説明会及び施設見学会を開催いたしました。８月１１日から１４日までの間、「募集要項」等に対する申請予定者からの質問を受け付けまして、その回答を８月２１日に再度ホームページに掲載いたしました。
その後、８月３１日から９月４日の間に、若葉区地域振興課の窓口にて「指定申請書」等の書類の提出を受け付けましたところ、資料３－１にございますとおりですが、「株式会社千葉マリンスタジアム」、「アクティオ株式会社」、「千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体」、「Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体」、「ヤオキン商事株式会社」、以上５つの法人等から申請がありました。こちらいずれも、施設見学会に参加した事業者であります。
続きまして、本日、差替えで新たに机上配布しております資料３－２を再度ご覧ください。都賀コミュニティセンターの指定管理申請者に係る第１次審査の結果について、ご報告させていただきます。
各審査項目の内容については、事務局にて審査をしまして、すべての申請者について、応募資格のコ以外の各要件を満たしており、かつ失格事由のいずれにも該当しないことを確認いたしましたので、その旨を９月１８日までに各事業者に文書で通知いたしました。
応募資格コにつきましては、市民総務課が全事業者分について警察への一括の照会を行っておりましたが、１０月１９日、つい３日前ですけれども、すべての申請者について、該当しないとの回答がありましたので、クリアということで「○」という記載に変更しております。
また、千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体について、事前質問への回答の中で、指定管理料の算定誤りがあったということで報告がありましたので、カタカナの「ア」の部分ですが、金額を修正したものを記載してございますけれども、基準額は依然として超過しておりません。
説明は以上でございます。
○吉田副部会長　　ありがとうございました。
ただいまの説明について、何かご質問はございますか。
（なし）
○吉田副部会長　　それでは、審査に入りたいと思います。
はじめに、株式会社千葉マリンスタジアムについて審査します。
まず、事務局であらかじめ採点した一部審査項目について、ご説明をお願いします。
○地域づくり支援室職員　　それでは、引き続き説明させていただきます。
本日机上配布しております、差替え後の資料３－４「採点表」をご覧ください。
事務局採点を行っていますのは、網掛け、やや黒く塗ってある部分でございます。こち

らすべて資料３－３「選定基準」の７ページから１４ページに掲載の点数表に基づいて採点を行いました。
まず、２の「（１）同種の施設の管理実績」ですが、こちらコミュニティセンターの管理実績があることから、５点といたしました。
次に、５の「（２）管理経費（指定管理料)」ですが、提案された管理経費の額を所定の算式に当てはめた結果、加算点が１０点となったことから、基礎点の１５点と合わせ、２５点といたしました。基礎点１５点につきましては、すべての事業者で共通でございますので、以降の申請者の説明からは省略させていただきます。
次に、６の「（１）市内産業の振興」ですが、こちら市内業者であることから、３点といたしました。
次に、６の「（３）市内雇用への配慮」ですが、施設従事者に占める市内在住者の割合が８割以上であることから、３点といたしました。
最後に、６の「（４）障害者雇用の確保」ですが、この項目は、「法定雇用率達成状況」と「施設における障害者雇用」のそれぞれの点数を算出して合計いたしますが、前者につきまして、法定雇用率を達成していないため０点、後者について、施設において障害者を１人以上雇用する場合で１点であることから､合計として１点という採点でございました。
株式会社千葉マリンスタジアムについては、以上でございます。
○吉田副部会長　　ありがとうございます。
ただいまのご説明について、何かご質問はございますでしょうか。
（なし）
○吉田副部会長　　では、株式会社千葉マリンスタジアムのヒアリングを行いたいと思いますが、その前に、「採点表」の２の「（２）団体の経営及び財務状況」について、私から、計算書類等を基にご説明をしたいと思います。
（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
○吉田副部会長　　予定より少し早いですけれども、もういらっしゃっていますか。
○地域づくり支援室職員　　はい。スタンバイしていただいていますので、今、呼んでまいります。
○吉田副部会長　　では、１０分くらい早く時間を進められているようですが、これから千葉マリンスタジアムのヒアリングを行いたいと思いますので、ご案内をお願いいたします。
［株式会社千葉マリンスタジアム　入室］
○吉田副部会長　　それでは、これからヒアリングを行います。よろしくお願いいたします。
今から１０分間で、本日の出席者の紹介と提案内容について簡潔にご説明をお願いいたします。ご説明が終わりましたら、当部会の委員から質問させていただきますので、お答えいただきますようお願いいたします。お時間ございませんので、座ったまま進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　　それでは、始めさせていただきます。
私は、株式会社千葉マリンスタジアム専務の久保木でございます。

隣が、文化事業部部長の浅川でございます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（浅川）　浅川です。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　それから、顧問の岩成でございます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　岩成です。よろしくお願いします。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　その次に、スポーツ事業部の太田でございます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（太田）　太田です。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　そして、総務部部長の永井でございます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（永井）　永井でございます。よろしくお願いします。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、弊社の提案書につきまして、太田よりご説明を申し上げます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（太田）　よろしくお願いいたします。
最初に、１ページをお願いします。
（１）の「管理運営の基本的な考え方」ですが、当社が指定管理者として最も重視することは、図にありますように、公正・公平、施設価値の向上、法令遵守、創意工夫の４つの基本姿勢であります。
次に、５ページをお願いいたします。
（３）の「管理運営の執行体制」ですが、図にありますように、所長以下、１３名の体制で管理を行いますが、設備機器等の施設管理や清掃業務につきましては、専門知識を有する業者に委託します。また、新たな業務として、所長、副所長は、利用促進の営業を行います。
次に、６ページをお願いします。
上段部分の「３　緊急時の連絡体制等」の（３）、下線部のところですが、勤務時間外、夜間等の閉館時においての災害発生に備えるために、転送電話方式により通報できるシステムを整えます。
次に、１８ページから１９ページをお願いいたします。
下段部分の環境衛生の管理についての内容と方法についてですが、１の四角で囲んだ、「新型コロナウイルス感染症対策」として、消毒など、（１）から（９）の対策を行います。
同じく下段部分の、「２　駐車場の混雑緩和対策」ですが、「（１）防犯カメラの設置」、次の２０ページ、「（２）出入り口での社員による入出時間の確認」、「（３）障がい者を対象とした民間駐車場の利用負担」を行います。
次に、３０ページをお願いいたします。
「（３）施設利用者への支援計画」ですが、上段部分の「２　利用者サービスの質の向上を目的とした具体的な方策」として、（１）から、３１ページの（８）の支援を行います。また、「３　利用者への新たなサービスの向上を目的とした具体的な方策」として、（１）から、３２ページの（１８）の支援事業を行います。
次に、３３ページをお願いいたします。
「（４）施設の利用促進の方策」ですが、中段部分の「２　利用促進の具体策」として、「（１）蘇我スポーツ公園施設と都賀コミュニティセンター体育館の連携」をはじめ、３４ページの「（３）東京情報大学、植草学園大学などへの働きかけ」、「（６）障がい者スポー

ツの振興」、「（７）市制施行１００周年記念イベントの開催」、「（８）外国人とのスポーツ・イベント交流大会の開催」、３５ページの「（１０）新しい生活様式を取り入れた感染症対策の徹底」などの、１１の事業を行います。

次に、４２ページをお願いいたします。

「（７）成果指標の数値目標の考え方」ですが、令和３年度の目標値は、大規模改修工事・新型コロナウイルス感染症の影響のない、平成２８年度実績を基に設定しております。

次に、４３ページをお願いします。

数値目標を達成するための具体的な方策についてですが、２の「（１）関連する団体、関係機関への広報と利用促進活動」を、所長、副所長を中心に、①から⑦までの団体を対象として、相手先に出向き、積極的に行います。

次に、４４ページをお願いします。

「（８）自主事業の効果的な実施」についてですが、１の自主事業に関する３つの基本方針として、（１）、コミュニティセンターの設置目的、ビジョン、ミッションを踏まえた自主事業、（２）、地域住民のニーズを反映した地域に密着した自主事業、（３）、若葉区役所が策定した「若葉区基本計画」に沿った自主事業を行います。

２の「具体的な自主事業」ですが、事業名１、「区民一人ひとりが担うまちづくり事業」として、１のひとり暮らしの高齢者などを対象とした「シニア食堂で生活の質の向上」、２、「高等学校料理研究部による創作活動と食事会」、１２の「今後の町内自治会のあり方勉強会」などの１２事業を行います。

事業名２、「ともに支えあい、ともにはぐくむまちづくり事業」として、１のひとり親世帯などを対象とした「子供給食事業」、３の「虐待防止講演会、相談会」などの１３事業を行います。

事業名３、「安心して便利に暮らせるまちづくり事業」として、１の「専門家による感染症対策講座」、５、６の、災害時の宿泊訓練などの１０事業を行います。

事業名４、「愛着と誇りの持てるまちづくり事業」として、１の「若葉区サイクリング」、４の「動物公園の成り立ちと今後の講演」。すみません、飛びました、３の「加曽利貝塚ボランティアの縄文人体験」、そして１０の、「徳川家康御成街道鷹狩り物語」などの１０事業を行い、合わせまして、合計４５の事業を行います。

次に、４８ページをお願いします。

「（１）収入支出見積りの妥当性（収入見込）」ですが、１の利用料金収入の諸室の稼働率、体育館の利用者数の伸び率に合わせまして、算定しております。

また、４９ページから５０ページは、自主事業収入の内訳になっております。

次に、５１ページをお願いします。

支出見込みについてですが、初年度の管理運営経費については、５１ページ、５２ページのとおりです。

また、５年間の管理運営経費は、５２ページ下段の表のとおりとなっております。積算内訳につきましては、これまでのコミュニティセンターの管理運営経費の実績を参考にしまして、５３ページに記載しております、コスト縮減への取組みを考慮し、設定いたしました。

説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。
それでは、委員の皆様から質問がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
関委員、いかがですか。
○関委員　　「提案書」の４４ページに、自主事業に関する記載がありまして、新しい利用者の利用を促進するために、自主事業はすごく入り口としてはいいのではないかなと思っておりまして、この中身を拝見すると、非常にセンスを感じました。面白そうな自主事業がすごくそろっているなと思います。
その中でお伺いしたいのが、この頭に「☆（星印)」が書いてあって、これは新規事業ということなのですけれども、この新規事業の意味合いです。御社にとって初めてチャレンジするのか、どういう意味合いなのか教えていただきたいという点と、あと、この「☆」は全部で２５ありまして、全体の約６割弱を占めていると。結構、新たな事業は何でもそうですけれども、かなりエネルギーがいると思うのですけれども、これは初年度に全部、実現可能なのかどうか。また、可能である理由について教えていただきたいと思います。
それともう１点。自主事業は、人気のある事業と、やや人気がない事業と分かれてきて、指定期間の中で入替えが発生すると思うのですけれども、新たな自主事業のテーマについてはどういうふうに検討されて、新たにご提案いただけるのか、その辺りに関するご意見というか、お願いできればと思います。よろしくお願いします。
○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　　まず、４４ページの「☆」がついているのが２４事業あるのですけれども、例えば１番のシニア食堂で生活の質の向上と、こういった事業は、今回１年を通じてやりますけれども、単発で、ほかのこれまでのコミュニティセンターでやったことがあるのですけれども、１年を通じてこういった長い期間やるというのは初めてです。基本的に、この「☆」のついているのは、このコミュニティセンターで初めて取り込もうとしております。
それから、作業量のことですけれども、基本的には初年度から、ここに書いてある４５の事業を取り込みたいと思っています。それで、人的には当社としても、例えば体育系とか、骨盤体操とかいろいろあるのですけれども、そういったものは今、蘇我スポーツ公園で専門のインストラクターがいまして、そちらに応援を頼むと。あと、本社のほうにもいますので。あと、ほかにコミュニティセンターを２か所やっておりますので、そういった方にも応援を頼んで、こういった事業を進めていきたいと思っています。
それから、基本的にこれ全部やるのですけれども、例えば２年目、３年目といったときに、同じ自主事業になってくると、利用客の方が飽きてしまう場合があるのです。そういったときは、基本的にはこの自主事業に関する基本方針、特に若葉区の基本計画に沿った自主事業を行っていく。ここで若葉区の基本計画というのは、基本的な方向性が５つ定められておりまして、今回そのうちの４つを使っているのですけれども、これに沿ってやっていきたいと思っています。
例えば、若葉区は非常に農業が盛んですので、例えばさつまいもの作り方と、実際に掘るとか、あるいは米作りとか、そういったことを一部、区役所さんと協議させていただきまして、事によると２年目、３年目でいくつかの中身が変わる可能性がございます。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　　付け加えさせていただきますと、自主事

業に関しましては、今回、積極対応ということでさせていただきました。４５事業のうち２５事業が新規というところでございます。これは、現在の利用時間を確認し、あと、空いている時間をしっかりと把握した上で、さらに、今回、関係する諸団体の協力をいただきまして、事前協議等も踏まえて、私どもが対応させていただくと。

かつ、今少しお話がありましたが、当社、この自主事業のエキスパート、というのは少しうぬぼれた言い方かもしれませんけれども、長年培った経験がございますので、エキスパートが担当させていただいて、今回、積極的に実施したいと考えております。

○関委員　　分かりました。ありがとうございました。

○吉田副部会長　　ほかにございますか。

では、秋元委員、お願いします。

○秋元委員　　施設利用の促進の方策なのですけれども、マリンスタジアムさんの得手だと思うのですが、スポーツ関連の施策が非常に多い感じがして。蛍の観賞、生育管理というのもあるのですけれども、全体的にやはりそちらに偏っているのではないかという感じがしますので、その辺りの考え方です。

それと、２つ目は自主事業、４５のうち４０事業が有料なのですよね。そういう意味では､低廉で対応するというところからして､一番やはり有料の事業が多かったのですよね。

それと３つ目、かなり新型コロナ対策を意識されていますけれども、これ小さい話なのだけれども、駐車場のところで札を渡して、時間をやるというのは、それはコロナ対策と反しますよね。少しそのような感じがしました、これは小さなことですけれども。

主に、１番目と２番目の質問について。

○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　　自主事業は、４５事業のうち４０が有料ということで、全体としては、全部の収支が大体２万円ぐらいの黒字なのです。例えば１番のシニア食堂とか、子供給食事業、こういった単価等については、若干高めに設定しているところもあって。自主事業全体でプラス・マイナス・ゼロぐらいにもっていくような感じで有料としていますけれども、今後、例えばもう少し黒字になってくれば、無料化の事業についても、ここで有料化と書いてありますけれども、増やしていきたいと考えは持っています。基本的には、自主事業でトータルとして、プラス・マイナス・ゼロぐらいにもっていければいいかなと思っています。

○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　　それと、私どものスポーツ事業が少し多いのではないかという印象が確かにあろうかと思いますが。確かに千葉マリンスタジアムという名前で、現在ＺＯＺＯマリンスタジアム、それからフクダ電子アリーナのサッカー場と野球場の施設の管理運営をしている関係で、大変そのイメージを持たれるかもしれませんけれども、私どもかつて千葉駅前の千葉市文化交流プラザ、ここで約１０年間、京葉銀行文化プラザとして音楽ホールの運営、それから各種文化イベントの運営等もやってまいりました。この経験を生かして、少しここにもいろいろ書かせていただきましたけれども、音楽文化の向上のために、いろいろな各アーティストとの交流もございます。それから各講師の先生方ともいろいろな交流もございますので、こういうものを使ってやっていくというのも考えておりますので。確かにそういうイメージがあろうかと思いますが、決してスポーツだけに特化したものをやっていくというものではありませんので、どうかその辺りはご理解いただきたいと思います。

○吉田副部会長　　よろしいですか。
　では、少し私からよろしいでしょうか。「提案書」の５９ページに指定管理料の提案金額について書かれておりまして、「募集要項」の２億９，４００万円の金額に対して、今回提案の指定管理料としては２億６，５００万円と、３千万円近く削減でのご提案をいただけたところで、逆に本当にこれほど削減されて十分にやっていかれるのかなという不安もあるのですが、この金額につきましては、皆さんこれで十分、都賀コミュニティにつきまして運営できていけるということですか。
○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　　それについては、もう一度詳しく。
○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　　現在、当社は高洲と真砂のコミュニティセンターを１２年やっているのですけれども、１２年間のコミュニティセンターでの管理実績とか、それから市内事業者さんからの見積りを取った結果、この金額で市の「管理運営の基準」のとおり、かつ市民サービスの低下を招かない範囲でできると思っております。
　それと、具体的には会社の本社経費を５％に抑えています。これは５３ページの下段に、管理運営経費、これは本社経費になりますけれども、合計で３００万ということで、ここを抑えているのと、もう一つは、同じく５３ページの上段ですけれども、コスト縮減の取組みについて会社として積極的にやっておりまして、光熱費であるとか、ごみの減量とか、施設の長寿命化とか、事務用品の一括購入、こういったことをやっていまして、この金額でできると考えました。
○吉田副部会長　　わかりました。ありがとうございます。
　もちろん、千葉市の財政的には縮減というのも喜ばしいことでしょうけれども、利用者のニーズを満たすということも、もちろん必要な面としっかりと認識されているのかなと理解いたしました。ありがとうございます。
　ほかに、ご質問はございますでしょうか。
　髙山委員、いかがですか。
○髙山委員　　いや、特にございません。
○吉田副部会長　　では、関委員お願いします。
○関委員　　御社の場合、スポーツ事業がアドバンテージといいますか、他社と差別化できる強みかなと思うのですけれども、この企画提案を通じまして、御社ならではのご提案ですとか、ここは他社には負けないのではないかというようなご提案の内容がございましたら、ご教示いただけますでしょうか。
○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　　少し説明が重複しますけれども、先ほど自主事業で説明いたしました、若葉区の基本計画と整合の取れた自主事業をやるということで、シニア食堂であるとか、子供食堂を提案させていただいていますけれども、今、コロナの時代で生活に困っている方が、より厳しい状況に置かれております。そういった方々を助けるという意味合いもあって、こういった事業を提案させていただいたのと、少し料理室の稼働率が低いというので、提案しております。
　それから、若葉区は加曽利貝塚とか、御成街道とか、動物公園とか、モノレールとか、そういった歴史文化遺産がたくさんありますので、こういった歴史文化事業を通じて、区民の皆さんも、ここの利用者の皆さんも、郷土愛の醸成を心がけたいということで、このような提案をしております。

それから、千葉市との連携を図るために、市制施行１００周年イベントであるとか、外国人との交流、それから障害者スポーツの振興、それから、若葉区は東京情報大学と植草学園大学の２つの大学がございますので。コミュニティセンターのアンケートとか、いろいろ調査しますと、あまり大学生の利用が非常に少ないということで、この２つの大学と連携して､それぞれの大学が持っている特徴を生かした事業を進めていきたいと思います。

それと、３つ目は、昨年もいろいろ、台風等、大変な災害がありましたけれども、災害時の対応として、これは当社が得意としているところですけれども、夜間はこのコミュニティセンターは職員が不在になります。そういったときは、市民の皆様から電話があったときに、区役所は避難所になっていませんけれども、コミュニティセンターは避難所になっておりますので､夜間でも受け答えができる｡例えば､避難所は開設していますかとか、ペットは連れて行けますかとか、そういった、ここにかかってきた電話を、所長とか、副所長に転送すると。それで、自宅で答えられると。そういった方式を取るとか、避難所運営委員会があるのですけれども、そういった役員を当社がやるとか、そういったことをやっております。

以上でございます。

○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　あと、アピールとして追加で、私ども新しい技術の導入ということで少し書かせていただきましたけれども、今回、現在フクダ電子アリーナにも導入させていただいていますけれども、ドローンによりまして、建物の点検、確認などを行って、これを修繕につなげると。そういうものを現在、拠点としてアリーナでもやっていますので、もう既にコミュニティ施設の改築等は終わってしまったのですけれども、更に今後そういうものが出てきたときに、こういうものを私どもとしては、新しい技術の導入ということで考えてアピールしておりますので、この辺りもお含みおきをいただければと思います。

○関委員　わかりました。ありがとうございました。

○吉田副部会長　次、私からですけれども、４２ページの成果指標のところでのご質問になるのですが、今、こちらの体育館の利用者数を前年比０．３％増として計算されていらっしゃいますが、スポーツジムのようなものがあって、そこで利用者数がどんどん増えていくようなタイプのコミュニティセンターが多いとは思うのですが、こちらの施設は、体育館という広いところで、でも人数がなかなか入れないというか、利用者数の伸びというのが、現指定管理者も苦慮されているところです。この０．３％という数字の計算の根拠として、どういった施策をすれば、順調に伸びていくと計算されているのか、その考え方についてお聞かせいただければと思います。

○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　体育館の利用者数を、この０．３％伸ばすためには、大体年間で５８人の増加が必要であります。若葉区は非常に高齢化率が高いということで、若者が少ないということもあるのですけれども、やはり今使っている方が結構、高齢の方が多いのですね。そういったことで、やはり大学とか、近くに若松高校、それから千城台高校、それから先ほどの情報大学とか、植草学園、こういった大学にもいろいろ働きかけて。なかなかコミュニティセンターがあると、みんなご存じないと思うのですね､ここに体育館があると｡そういったところに働きかけることと､次に４３ページの、先ほど話にもあったように、具体的な方策で、この関係団体への利用促進活動を、やはり

ここに座っていてはなかなか利用者は集まりませんので。実際、相手の施設に所長、副所長が出向いて行って、ここのスポーツ施設をＰＲしてくると、そういったことを考えています。

○吉田副部会長　　せっかくあれだけ広い体育館を使えるというのは、逆にメリットでもあると思いますので、皆様のお得意な分野かと思うので、ここは期待したいところかなと思っております。

まだ、ご質問ありますか。

○株式会社千葉マリンスタジアム（岩成）　　それと、我が社はご承知のとおり、ロッテとの親交が長く、３０年近くありまして、それと蘇我のスポーツ公園でサッカー場を管理しておりますので、そこでジェフの選手との親交もあります。そういったことで、ロッテとかジェフのプロの一流選手を招いて、ここで実務はできないと思うのですけれども、トーク会であるとか、サイン会であるとか、簡単な実技指導、そういったものをオフシーズンに行っていきたいと思います。

○吉田副部会長　　まさに、新たに、まず、ここにコミュニティセンターがあるということを知らしめるにはとてもいいアイデアなのかなと思いました。

いかがでしょうか。追加のご質問は。

○地域づくり支援室職員　　あと１分です。

○吉田副部会長　　あと１分ということですけれども、よろしいでしょうか。

（なし）

○吉田副部会長　　逆に皆様からお伝え残したことがあれば、お聞かせいただければと思うのですが、もうしっかりお話を伺えたということで、よろしいですか。

○株式会社千葉マリンスタジアム（久保木）　　私ども、精いっぱい今回頑張ってまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。

では、そろそろお時間となりましたので、これでヒアリングを終了させていただきたいと思います。千葉マリンスタジアムの皆様、ありがとうございました。

［株式会社千葉マリンスタジアム　退室］

○吉田副部会長　　５分と少し慌ただしいですが、間違えないように、千葉マリンスタジアムのところに点数をご記入いただければと思います。

［仮採点］

○吉田副部会長　　それでは、次にアクティオ株式会社について、審査を行います。

まず、事務局であらかじめ採点した、一部審査項目についてご説明をお願いします。

○地域づくり支援室職員　　それでは、私からご説明させていただきます。

今、ご記入いただきました「採点表」をそのままご覧ください。審査項目は先ほどと同様です。

まず、２の「（１）同種の施設の管理実績」ですけれども、コミュニティセンターの管理実績があることから、５点といたしました。

次に、５の「（２）管理経費（指定管理料）」ですが、提案された管理経費の額を所定の算式に当てはめた結果、加算点が４点となったことから、１９点といたしました。

次に、６の「（１）市内産業の振興」ですが、こちら市外業者であることから、０点とい

たしました。
次に、６の「（３）市内雇用への配慮」ですが、施設従事者に占める市内在住者の割合が５割以上８割未満であることから、２点といたしました。
最後に、６の「（４）障害者雇用の確保」ですが、法定雇用率を達成しているため１点、施設において障害者を１人以上雇用する場合であるため１点であることから、合計として２点といたしました。
以上でございます。
○吉田副部会長　　ありがとうございました。
ただいまの説明について、何かご質問ございますか。
（なし）
○吉田副部会長　　では、アクティオ株式会社のヒアリングを行いたいと思いますが、先ほどと同様に、「採点表」の２の「（２）団体の経営及び財務状況」について、私から計算書類等を基にご説明したいと思います。
（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
○吉田副部会長　　では、財務状況につきましては以上となりますので、これからアクティオのヒアリングを行いたいと思います。アクティオの皆さんをご案内ください。
［アクティオ株式会社　入室］
○吉田副部会長　　それでは、これからヒアリングを行いたいと思います。よろしくお願いいたします。
今から１０分間で、本日の出席者の紹介と提案内容について簡潔にご説明お願いいたします。ご説明が終わりましたら、当部会の委員からご質問させていただきますので、お答えいただきますよう、よろしくお願いいたします。お時間の都合もありますので、座ったまま説明していただければと思います。よろしくお願いいたします。
○アクティオ株式会社（淡野）　　本日は、千葉市都賀コミュニティセンターのプレゼンテーションの機会を与えていただき、誠にありがとうございます。
はじめに自己紹介をさせていただきます。私は、アクティオ株式会社代表取締役淡野でございます。
○アクティオ株式会社（小林）　　施設担当の小林でございます。
○アクティオ株式会社（二階堂）　　都賀コミュニティセンター所長の二階堂です。
○アクティオ株式会社（鈴木）　　東日本の施設を統括しております、鈴木です。
○アクティオ株式会社（藤原）　　企画制作室の藤原でございます。
○アクティオ株式会社（淡野）　　どうぞ、よろしくお願いいたします。
では、「提案書」の説明に入る前に、私から一言ご挨拶を申し上げます。今年は新型コロナウイルスという未曽有の出来事にさらされております。コロナ禍の中、今できることを着実に行っております。担当部局の皆様には、日頃から多大なるご支援を賜り、本当にありがとうございます。
これから、若葉区の皆様方と力を合わせて、いち早く不測の事態に順応、対応すべく行動をしてまいりたいと思っております。
また、施設の稼働率や、利用者満足度は、弊社において大きな課題ととらえております。

所長をはじめとするスタッフ一同で、様々な取組み、研修を行い、また、弊社の指定管理１３７施設の実績やノウハウも十分活用しながら、成果指標を明確にして、より良い施設運営を行っていく所存でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

では、小林から説明をさせていただきます。

○アクティオ株式会社（小林）　私、小林より「提案書」の説明をさせていただきます。お手元の「提案書」、１ページをご覧ください。

私どもの「管理運営の基本的な考え方」ですが、公の施設の指定管理者として、各種法令遵守、公正・公平な対応、そして安全・安心な運営を基本的にとらえ、当施設の設置目的を最大限に発揮できるように努めています。

また、千葉市の施策や設置目的をよく理解した上で、市民の皆様に有益で魅力的な事業を実施し、施設の有効活用、サービスの品質の向上、地域連携に努め、地域コミュニティの振興につながる管理運営を行ってまいります。

続いて、２ページをご覧ください。

私どもは、これまで都賀コミュニティセンターを管理運営してきた中で、地域の特性や利用者ニーズの収集、把握を行い、次期指定期間には、次の３点を重点施策として取り組んでまいります。

対策１として、「コミュニティの情報発信の強化」です。がんばる地域応援プロジェクトの創設、地域ネットワークをいかした情報展開、ＳＮＳによる情報発信、町内自治会への広報活動の強化に取り組みます。

対策２として、「施設利用促進、利用者満足度の向上」です。稼働率の低い諸室や時間帯利用の促進、新たな利便性の提供、感染症対策の実施、体育室の冷風機の導入を行います。

対策３として、「地域の諸団体、市民等との連携強化」です。都賀いきいきセンターとの連携、加曽利貝塚の展示の更なる充実、総合防災訓練の実施、都賀コミュニティまつりの開催を行います。

私たちは、これらの対策を実施するための管理運営コンセプトを、「ホップ！ステップ！みんなのつがコミ～多様なコミュニティへの順応力～」といたします。これまで以上に地域との連携を深めることで、更なる地域貢献に邁進してまいりたいと考え、このコンセプトを掲げました。

続いて、６ページをお開きください。

「再委託の考え方」ですが、施設の管理業務については、再委託一覧にあるとおり、ほとんどが千葉市内の企業です。なお、職員、スタッフ雇用においても、地域内雇用を最優先とし、１３名中１０名が市内在住者です。

また、私たちは障害者雇用にも努めております。千葉県からフレンドリーオフィスとして認定され、公表されてもいます。

続いて、１８ページをご覧ください。

「駐車場の管理」についてです。当施設は、お車でお越しの利用者も多く、曜日、時間帯によっては満車になることがあります。駐車場の混雑緩和対策として、駐車場混雑度マップを作成し、施設内、ホームページ上で発信をし、好評をいただいております。次期も続けていこうと思っております。

続いて、２４ページをご覧ください。

総合防災訓練を各機関の協力をいただき、避難所運営委員会の８町内自治会と都賀いきいきセンターの方々に参加いただき、実施いたしました。今後も、緊急時でもお互いに連携できる関係性を日頃から構築し、地域とともに共助による減災を図っていきます。

なお、昨年度の台風１５号の際の大規模停電に学び、電源の確保が必要であると考えたため、当施設の１階のロビーに防災タワーを設置し、市民の生活を守っています。

続いて、２９ページをご覧ください。

「サービス向上策」として、スカイウェル新型モデルの導入や、サークルロッカーの創設、Ｗｉ－Ｆｉ設備を２室から４室に増設するなど、利用者ニーズに応えることで、更なる利便性を提供していきます。特に力を入れたいのは、次の３０ページにございます、加曽利貝塚の展示コーナーの更なる充実と、関連事業の実施です。博物館や同好会と連携、協力体制をより一層強化し、誇るべき当地域の遺産を積極的に発信していきます。

また、ぜひ期待していただきたい先進的な取組みといたしましては、ページ中ほどにございます施策です。がんばる地域応援プロジェクトの創設では、地域のイベント情報や活躍している方々の紹介、町内自治会やサークル活動の情報等をホームページで発信することで、ウェブ上でも地域の活性化に寄与していきます。

また、現在コロナの影響による新しい試みとして、ＷＥＢサークルまつりを実施しています。コミュニティまつり中止に伴い、発表の機会を失った多くのサークルが参加され、閲覧数も初日５８３人という数字に表れているとおり、大変盛況となっております。次期は、このサークルまつりの更なる拡大を目指します。

また、広報に関しましては、ＳＮＳをフル活用し、若い世代に向けた情報発信を行ってまいります。

続いて、３５ページをご覧ください。

「利用者等の意見聴取、自己モニタリングの考え方」についてです。利用者やサークル団体の声を収集することが、満足度向上、ひいては稼働率や利用者数の増加につながると考えております。そのため、アンケートの実施はもちろんのこと、近隣の施設では行っていないサークル代表者会議を開催し、利用者の生の声を施設運営に反映していきます。

次の３６ページにありますように、自己モニタリングについては、当社独自のセルフモニタリングシステム、ＡＳＳＭＳ（アスムス）を実施しています。毎年、施設の安全管理も含めた１２０項目の業務点検を、本社担当者がチェックし、業務の停滞を防ぎ、改善をしていきます。

続いて、４１ページをご覧ください。

私たちは、年間諸室別、時間帯別の稼働率の分析を行い、利用促進を図っています。次の４２ページにありますように、稼働率の高い諸室はサークルマップを作成し、見える化を行うことで、活動しやすい時間帯、諸室をご案内いたします。稼働率の低い諸室は、例えば料理室では、人気の味噌作り教室に加え、そば打ち体験教室を新しく開講することにより、稼働率の向上や地元に密着した事業の展開を図っていきます。

加えて、活動中のサークル、１０カテゴリー、１千名の打点マップを活用したマーケティングを行い、情報発信を行っておりますが、今回の提案では、更に３５町内自治会、８，６９０世帯に拡大することで、広報をより強化し、利用促進を図ります。

４３ページをご覧ください。

自主事業は、ページ中ほどにあります６つの柱を基本に、地域コミュニティの活性化につながる事業に重点的に取り組んでまいります。

最後に、４６ページをご覧ください。

私どもは、これまで都賀コミュニティセンターを運営していく中で、ページ中ほどに図示しております、地域連携のネットワークを築いてまいりました。今後も、こちらを活用、進化させていくことによって、地域に根差したコミュニティセンターの運営を行います。ぜひ、私どもに次期運営もお任せください。

以上、ご清聴いただきありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。

それでは、委員の皆様からご質問がございましたら、お願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

では、まず私からよろしいですか。

こちら若葉区という土地柄、高齢者が多いという面で、実際、目の前の利用者の方も高齢者の方であり、そのご対応を十分していただいているのかなとは感じているのですが、やはり今後の利用率、成果指標を達成するためには、若い方たちの取り込みが欠かせないという点は、皆さんに置かれましても、問題意識として十分お持ちかと考えております。

ただ、今回若い世代の取り込み策として、ＳＮＳということはすごく強調されておりますが、いくらＳＮＳで情報発信しても、来たからといって、そこで何かしら得られるものがないと、なかなか実際に足を運んでいただくということは難しいと思います。その点についてあまり触れられていなかったので、具体的に若い方たちが参加するようなもののお考えがありましたら、教えていただけますか。

○アクティオ株式会社（小林）　　こちら、自主事業に関して新しい取組みといたしまして、いくつか新しい講座を開講する予定となっておりまして、４５ページをご覧いただければと思うのですけれども。そちら５番の児童・生徒対策事業といたしまして、夏休み子ども宿題お助け教室、プログラミング教室、職業体験という３つの新しい講座をすることによって、若い世代、小学校とか、児童生徒さんを対象にした取組みをしながら、お母様、お父様の世代にも知っていただくというところを目指しております。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　あと、若いお母様を対象に、乳幼児対象事業ということで現状も行っているわけですが、今回、地域の町会の数も増やしまして、３５町会で、今８，６７０世帯の方に、もう既に撒いておりますが、結構その辺りのところの反応がものすごくありまして、問合せも来ていますので。やはり今まで８町会で自主事業の案内をしていたのですが、こういった機会があるというのを知らなかったというご意見もたくさんいただいていますので、その辺りのところに重点的にまたお知らせをしていこうと思っております。

○吉田副部会長　　分かりました。

ちなみに今、小・中学生、そして若いママさん世代向けで、高校生、大学生あたりの施策というものは見当たらないという認識でよろしいですか。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　そういったところでは、実際にいろいろな事業をやっているわけですけれども、高校生ぐらいになりますと、高齢者対象事業が中には多いのと、あと、世代間交流ということで、コミュニティまつり等は、いろいろな世代の方が参

加されて、実際にバレーボール大会もやっていますし、あと、その上の大学生あたりになりますと、ボランティアで入っていただいていますので、そういった機会で世代間交流といいますか、そういうものを基軸として対応しているのが現状です。

また、今後も進めていきたいと思っております。

○吉田副部会長　　分かりました。ありがとうございます。

では、秋元委員お願いします。

○秋元委員　　何点かございます。１つは改修工事だったり、コロナだったりで、利用者数がなかなか伸びないという現実があるのですけれども。例えば１つ、体育館の利用なのですが、アクティオさんだけ体育館の専用利用で第３土曜日、あとは個人の使用ということの提案になっています。ほかの応募者の提案は、一応個人の利用と、それから午前、午後、夜間、それぞれ専用利用も含めて検討されているようなのですが、現状としてはその辺りの企画は無理なのか。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　それについては、都賀コミュニティ特有なのですけれども、個人の利用者の方が長年ずっと使っていらっしゃって、今も全体の４０％は卓球なのですね。あとバドミントンが３０％、そのほかにバレーボールになるのですが、個人の利用が非常に盛んなのです。今、開館前ですと、多い時ですと１０人以上の方が、あるいは中高生でバドミントンをやる方が５、６人来まして、２０人ぐらいのかたまりができて入館されて、入館のときは面数以上の申込みがあるものですから、抽選をして当たったところからご利用いただいているのです。

そういうような背景がありまして、この専用利用が導入されたときに、行政とも相談しまして、やはり個人利用の方々も枠をこれ以上狭められないということで、第３土曜日の１時から５時までのご利用時間として設けたのです。実際、蓋を開けてみますと、やはりその時間帯は、ほとんどの方が卓球をグループで使われる方が多くて、それ以外の申込みというのは、ほとんどないのです。そういう実態をふまえると、やはり個人利用主体の体育館運営のほうが、都賀に関しては利用者サイドに立った、市民サイドに立った利用の仕方だととらえております。

○秋元委員　　分かりました。

それと、全体的にはコンパクトで、かなり整理されているなという感じは受けました。

自主事業のところで、やはり使いやすいという点では、４４の事業のうち３２が無料の企画なのですよね。そういう意味では非常に利用しやすい、そういう企画になっているのかなとは思いました、新しい企画も入っていますし。ぜひ、いろいろ、一番はやはり、利用者が増えていない、稼働率が上がっていないという、その辺りだと思うのですね。そういう意味では、現実的な稼働率とか、利用者数になっているのかなとは思うのですけれども、ぜひ、そこはしっかり、もし選定された場合、しっかりお願いしたいかなと思います。

○吉田副部会長　　では、関委員、お願いします。

○関委員　　３点ほどお伺いしたいのですけれども。まずは７ページの真ん中辺りのウに、御社の強みとして、指定管理を１３７施設もされていると、今、大きな強みだと思って見ておりまして、そのネットワークの活用に興味があります。この館長会議ですとか、いろいろ情報交換しながら、それぞれのＰＤＣＡサイクルを回していくことによる相乗効果ですとか、何か実際にそのネットワークを活用して、こんな取組みが新たに起きたとか、効

率化が図れたとか、利用促進が図れたとか、何かそういう具体的な事例があれば、ご教示いただきたいというのが１点です。

それと２つ目が、３０ページ下部で、今後の提案、４つほどされていらっしゃって、それぞれすばらしい提案だなと思いました。その３つ目の町内自治会の広報の強化、これ今８町内会で、３５町内会に拡大されるということなのですが、最初から３５町内会にされていればよかったのではないかなと思うのですけれども、８町内会にとどまっていた理由などがあれば教えていただければというのが２点目です。

３つ目が４２ページなのですけれども、真ん中辺りのイに、稼働率の低い諸室や時間帯の利用促進とありまして、稼働率の低い時間帯を見ますと、夕方から夜にかけて、これは奥様は食事の支度ですとか、子どもたちは面白いテレビがあったりとか、何らかの理由があって稼働率が低いのだと思います。そこを上げようというのはなかなかハードルが高くて、むしろ日中のゴールデンタイムといいますか、それでも高くても７割ぐらいで、そこをいかに高めていくかという視点も重要だと思うのですけれども、時間帯別の利用促進の在り方というか、多く指定管理されていらっしゃる実績もおありなので、その辺りの考え方について教えていただけますでしょうか。

以上３点、お願いします。

○アクティオ株式会社（鈴木）　では、私から１番についてお答えします。１３７か所を運営しているメリットをどういうふうに生かしているのかと。現在、私どもは毎月、各施設で、実績はもちろんですけれども、起きたこと、例えば自主事業でこういうことに成功したとか、逆に失敗した例もあるわけです。例えば、クレーム処理を少し間違ったとか、こういう事故が起きたとか、正直言ってあります。それを全部集めまして、それを再度整理して、また全国の施設にフィードバックするという動きをしております。

一番やはり１３７施設運営のメリットというのは、自主事業ということがありますけれども、各施設、高齢者の施設から子どもの施設、いろいろな種類があります。それを全部集めて、こういう自主事業をやっています、これは他の施設にも展開できる内容ですというのをフィードバックして、それを参考に取り入れたりとか、そういうことも行っております。ですから、成功例や失敗例を全部一度吸い上げて、それを横展開しているというのが現状でございます。

○アクティオ株式会社（二階堂）　今、ご質問の町内自治会の広報の強化というところなのですが、この８町会というのは、最初は避難所運営委員会、うちは避難所になっていますので、この避難所運営委員会の皆様と、会長さん、防災担当者の方と打合せをしまして、いろいろな避難訓練をするのですが、では、ここの方、直近の方に、まずは市政だより以外で広報活動を強化して、自主事業であるとか、いろいろな催し物についての発信をしようというのが、実はスタートだったのです。

その後に、今回やはり課題として評価委員の方にいただいた、もっと事業の拡販といいますか、そういった場所をもっと積極的に開拓しなさいというご指摘もあったし。それで利用者さん、サークル団体、今７６６あるのですが、これを１０カテゴリーに分けて、１千名の調査をしたら、やはり重点的に、若葉区に住んでいる方々が圧倒的に多いというような認識をしまして。特に元気な高齢者の多い若葉区は、太極拳とかのサークルさんが非常に多いのです。この辺りのところがもう８３％ぐらいを占めているのです。それに伴

って、これはこの地域の８町会でとどまっていたのでは、やはりせっかくいろいろな事業をやっているのに分からないということで、３５町会の８，６９０世帯に事業を展開しようということで、計画したということです。

実際に今試験的にやっているのですが、ものすごく反響がありまして、オレンジリングとか、元気に体操とか、今やっているのですが、皆さんから問合せも来ていますし、定員もほぼ満席になるぐらいの状況になっておりまして、効果が非常に出ているという状況です。これが２点目です。

３点目のご質問の、サークル活動と稼働率の関係なのですが、実はこのサークルマップというのは、現状、現場にいますと、今７６６団体が登録をかけて、利用したいということで、曜日の時間帯で、諸室別で予約を入れるのです。そこに新たなサークル様が来たときに、２つの声があります。１つは、今までの既存のサークルさんは、たくさん入ることによって、自分たちのサークル活動ができないではないかと。抽選の確率がものすごく低くなってしまいます。

それで、サークルのマップを作って、この曜日のこの諸室は、非常に活動するサークルが多いということであれば、新しいサークル様に、曜日をずらしていただいて、ホールを使いたいということで、この時間帯をご利用したらいかがですかというような形でお話ししているのです。そうすると、今までの既存のサークル様も、新たなサークル様も利用ができる。サークル様の長くやっている方々の声を聞くと、こんなに入ってきたら私たちのサークルができないではないかと。もうこの日しかできないはずなのに、でも新しいサークル様を入れることによって､やはりできないというような声が非常に高いものですから、施設でそういうマップを作って、新しいサークル様にも空いているところをできるだけ使っていただくと。従来のサークル様には、できるだけ今の状態でしかできないので使っていただくというような形で、稼働率の向上も図れますし、利用者サービスに一番適しているというような形です。

○関委員　　よく分かりました。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　よろしくお願いします。

○関委員　　ありがとうございました。

○吉田副部会長　　では、私からよろしいですか。

収支予算書を拝見させていただきまして、今回、指定管理料を市の提示金額よりも削減されて計算されていらっしゃるのかなと。従来より、収支状況は必須業務で十分、黒字確保されており、そのご説明に関しては、今年度において電気料金の削減というお話もいただいております。もちろん、千葉市の財政という意味では、削減というのは大変ありがたいお話なのですけれども、その一方で、しっかり利用者のサービスというものも充実させていただきたいので、必ずしも削減がすべてよいということではないという理解もしています。今期に関しまして、前回の電気料金は途中で削減となったということだと思うのですが、現在考え得るものはしっかり、十分に整理された上で削減も可能であるという計算をなされたという理解でよろしいですか。もし、詳しいご説明があったらお願いできればと思います。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　特に、電気、光熱水費が非常にウエイトが高いのです。やはり今回、大規模修繕後、電力のデマンドコントロールをしっかりやっていまして、

事務所にもついていますし、設備のほうにもついています。ピーク電力によって、翌年の電気料が決まってしまうので、ここは非常に神経を使って、ピークを超えそうな状況になると、使わないところの電気を切ったり、あるいは抑えたりということがあります。それが第１点。

あと、もう１点は、東京電力と、日本テクノという電力会社、新電力があるのですが、ここと競合していただいて、東京電力のほうが非常に安い価格で電力を出していただいています。これは、従来の価格では全然ないような価格で来ていますので、一時は新電力に東京電力はほとんど取られた経緯があって、今、東京電力が巻き返しに入っていまして、毎年その辺りのところのコストダウンをしていただいて、提案させていただいた光熱水費は固いところで、しっかりと今までのサービスを維持しながら対応できるというところであります。

○吉田副部会長　　やはりそういったノウハウも、１３７施設と多数の施設をお持ちの中で、皆さんで共有されてきているということですかね。

○アクティオ株式会社（二階堂）　　そうですね、はい。

○吉田副部会長　　分かりました。ありがとうございます。

ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。

では、関委員お願いします。

○関委員　　細かいところなのですが、４５ページの自主事業ですけれども、下のほうに新規事業で職業体験とありまして、今、若年者の離職率が非常に高いという社会的な問題があって、やはり若いうちから職業に親しむというのはすごく重要なことだなということで、この事業はすごく社会的意義が大きいなと思います。一方で、中学校や高校の先生に伺うと、受入先の企業を探すのがとても大変だという話もありまして、なかなかその点ハードルが高いなとは思うのですが、この事業というのは、都賀にとっては新規事業なのですけれども、他の１３７施設で実際にやったことはおありになるのでしょうか。全く初めてということなのでしょうか。

○アクティオ株式会社（鈴木）　　あります。高校生を対象にやったことがあります。職業あっせんのところまでいけたかというと、正直に言うと、そこまででではないのですけれども、一応事務室で働いていただいたりとか、そういったことで。提携して実施したことがあります。

○関委員　　反響はいかがでしたか。

○アクティオ株式会社（鈴木）　　先生方は非常に喜んでいただいて。

○関委員　　そうでしょうね。

○アクティオ株式会社（鈴木）　　オリエンテーションに行ったのですけれども、非常に態度が悪いのですよね。もういかに高校が荒れているかというのが分かるぐらい、机の上に足がこうドンと乗るような感じでお聞きいただいて。終わると、まあまあそれなりにちゃんと挨拶もできるようになってということで、やはり我々にとっても非常に必要なことかなと考えておりました。

○関委員　　ありがとうございました。

○吉田副部会長　　ほかにいかがでしょうか。

秋元委員大丈夫ですか。

○秋元委員　　はい。
　髙山委員は、いかがですか。
○髙山委員　　はい、特に。
○吉田副部会長　　では、アクティオの皆様、逆にお話し足りていないことがありましたら、せっかくまだあと１分ほどあるようなので、最後の一言をいただければと思います。
○アクティオ株式会社（鈴木）　　では、代表して社長から一言。
○アクティオ株式会社（淡野）　　本日お時間をいただいて、いろいろと課題という部分で、なかなか利用者の増加をさせられていないという部分と、やはり満足度に関しても、私ども全施設において、一番の目標として、皆さん笑顔で利用いただくということを目的としていますけれども、なかなか至っていないということにショックを受け止めております。ですから、全社挙げて、ここを見直しながら、一日も早くたくさんの方に笑顔でご利用いただく施設、引き続き目指してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
○吉田副部会長　　それでは、これでヒアリングを終了したいと思います。アクティオの皆様、ありがとうございました。
　それでは、ご退室お願いいたします。
［アクティオ株式会社　退室］
○吉田副部会長　　それでは、委員の皆様は今のヒアリングを踏まえて、５分程度で採点をお願いします。
［仮採点］
○吉田副部会長　　それでは、一旦２０分ぐらいまで休憩といたします。
［休憩］
○吉田副部会長　　それでは、再開いたします。
　次に、「Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体」について審査を行います。
　まず、事務局であらかじめ採点した一部審査項目につきまして、ご説明をお願いします。
○地域づくり支援室職員　　それでは、一部審査項目の採点結果についてご報告させていただきます。
　当日採点用の資料３－４、先ほどと同様のものの２枚目になります。「２／３」と書かれているものをご覧ください。
　２の「（１）同種の施設の管理実績」ですが、まず、本共同事業体として、千葉市内でコミュニティセンターの管理実績がございますので、５点といたしました。
　次に、５の「（２）管理経費（指定管理料）」ですが、提案された管理経費の額を所定の算式に当てはめた結果、加算点が７点となったことから、２２点といたしました。
　次に、６の「（１）市内産業の振興」ですが、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ、オーチュー共に準市内業者でありますが、協定書に記載の責任割合を乗じて計算した結果、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ１．５点、オーチュー０．５点となりまして、合計して２点といたしました。
　次に、６の「（３）市内雇用への配慮」ですが、施設従事者に占める市内在住者の割合が８割以上であることから、３点といたしました。
　最後に、６の「（４）障害者雇用の確保」ですが、共同事業体としての申請でありますので、法定雇用率を両構成団体それぞれで算出しまして、所定の算式に当てはめた結果とし

て０点、施設において障害者を１人以上雇用する場合ということで１点ということで、合計１点といたしました。
以上でございます。
○吉田副部会長　ありがとうございました。
ただいまの説明について、何かご質問はございますでしょうか。
（なし）
○吉田副部会長　では、「Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体」のヒアリングを行いと思いますが、先ほどと同様に、「採点表」の２の「（２）団体の経営及び財務状況」について、私から計算書類等をもとにご説明したいと思います。
（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
○吉田副部会長　ありがとうございます。
では、これからＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体のヒアリングを行いたいと思います。
Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体の皆さんをこちらにご案内ください。
［Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体　入室］
○吉田副部会長　それでは、これからヒアリングを行います。よろしくお願いいたします。
今から１０分間で、本日の出席者の紹介と提案内容について簡潔にご説明をお願いします。ご説明が終わりましたら、当部会の委員からご質問させていただきますので、お答えいただきますようお願いいたします。時間もございますので、着座のままお願いいたします。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　このたびはこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体の出席者をご紹介いたします。
右よりＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ執行役員、高藤でございます。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　よろしくお願いいたします。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　オーチュー千葉支店支店長代理川村でございます。
○株式会社オーチュー（川村）　よろしくお願いいたします。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ地域ミーム事業部、菅沼です。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社菅沼　よろしくお願いいたします。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ、岩澤です。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社岩澤　よろしくお願いします。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　私はＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社の椿谷でございます。
それでは着座にて失礼いたします。
はじめに、当共同事業体の紹介をいたします。
代表企業のＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社は、社会貢献と人間の成長を企業活動の目的と

して、「わくわくの“わ”を広げよう」をビジョンに、公の施設を中心に、全国で２１施設を運営しております。構成企業の株式会社オーチューは、官公庁をはじめ、数多くの施設の維持管理を行ってきた会社で、品質、環境、情報管理に関する３つのＩＳＯを取得しております。私たちは２社共同で、千葉市内で７か所の施設の運営を行っており、また、運営面、財政面で安心安全をご提供いたします。

それでは１、２ページをご覧ください。

指定管理者制度による「管理運営の基本的な考え方」についてです。指定管理者は、市及び区の方針、施設の設置目的、地域特性の３つを十分に理解した上で、基本コンセプト等を定め、運営をしていくことが重要だと考えております。

千葉市及び若葉区の基本計画とコミュニティセンターの設置目的につきましては、すでに複数のコミュニティセンターを運営しており、十分な理解ができております。ただし、地域特性につきましては、現在、千城台コミュニティセンターを運営しておりますが、同じ若葉区内でも都賀と千城台とでは地域特性は異なるため、地域の視察、ＲＥＳＡＳ（リーサス）や、駅の乗降者数等によるデータ調査、都賀在住の職員からの聞き取りなどを行いました。その結果、都賀は子育て世代、高齢者、外国人、転入者など、地域住民の多様性が特に強い地域ととらえることができました。地域住民の多様性があるということは、魅力であると同時に、まちの一体感や連携といった部分では弱くなりやすいという傾向があります。私たちは、こうした地域特性を踏まえ、運営の基本コンセプトを“「つながる」「つなげる」コミュニティセンター”と定めました。多様な人々が都賀コミュニティセンターに集い、交流し、つながっていく仕組みをつくることで、地域の多様性を生かした運営を行います。

４ページ下部から５ページにございます、特徴的な取組みをご覧ください。

１つ目がコミュニティカフェの実施です。すでにサークル活動をされている方々は本施設に来館しますが、まだまだ施設の利用方法を知らない、存在自体を知らないという方々も多くいらっしゃいます。そこでまず、来館のきっかけとなる取組みとして、コミュニティカフェを設置します。コミュニティカフェは今まで用事がなく、入ることのなかった方々でも、本施設でコーヒーを飲んだり、無料でＷｉ－Ｆｉが使えることで、地域に開かれた場所にします。同時に、多様な方々が興味・関心を持てるテーマで相談会や交流会を行い、来館するきっかけと、そこで交流を促す仕組みをつくっていきます。日本語学校に通われている外国人との交流などは、お互いの文化理解や言語を学ぶ格好のテーマの１つではないかと考えております。

２つ目は、「ちばＦＵＮくらぶ」の導入です。私たちが市内５施設で一体として運営しているボランティア組織です。地域には様々な特技や趣味を持ち、それを何かに役立てたいと思っている方々がいます。多様性のある都賀であればなおさらです。ちばＦＵＮくらぶは複数施設で構成されているボランティア組織としての仕組みを持っているため、より広い地域での活動と、交流の機会、特典を提供することができます。

３つ目に「まなぼうさい」の実施です。昨年台風１５号、１９号がありました。また、千葉は震度６以上の地震が起こる確率も高いと言われています。更に災害時の新たな脅威として、新型コロナウイルス感染症の対策も必要です。そこで災害時に役立つアウトドアの知識など、楽しみながら学び、体験するイベント、まなぼうさいを毎年開催します。私

たちが運営している蘇我コミュニティセンターでは毎年１千人以上が訪れており、施設の認知度向上と利用促進にもつながっています。

次に、３２ページをご覧ください。こちらのグラフですが、青い部分が現在の指定管理者の実績、緑色は私どもの今後の計画です。平成２９年度の改修工事以降、利用者及び利用団体が戻ってきていないことが顕著に現れています。私たちは、３３、３４ページにあります、サークル利用者へのサービス向上施策と利便性向上策により、今までの利用者を呼び戻し、利用の頻度を上げます。同時に３５、３６ページにあります、日常的で地道な利用促進や認知度向上を行っていきます。

さらに、施設全体を使ったイベントとして、子どもたちが働くことやお金について学ぶことができる、「子どものまち」や、市内の病院や都賀いきいきセンターと協力し、高齢者の楽しめる、「健康チャレンジフェスタ」を毎年開催します。そのほか、調理実習室など、稼働率の低い部屋を有効活用することで、令和７年には利用者数７万５，５２０人、利用団体数７，８１３団体以上を確実に実現します。そのほか自主事業一覧として、４８、４９ページに細かく記載もしておりますが、今まで本施設に関心がなかった方々も含め、幅広い方々に施設をご利用いただくために、年間約４０種類、１００回を超える教室や講座を実施してまいります。私たちは、このように、目標と品質を明確にした運営を行うことで、「つながる」、「つなげる」コミュニティセンターを創造してまいります。

最後になりますが、新しい生活様式と言われる今、私たちが培ってきたノウハウと経験を柔軟に生かし、責任を持って運営に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体のプレゼンテーションを終了いたします。

ご清聴ありがとうございました。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。

それでは委員の皆様からご質問ございましたら、お願いいたします。

では、私から。

Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅとオーチューさんに関しましては、すでに千城台のコミュニティセンターという、とても近いところの指定管理をされていらっしゃるというところで、同じ若葉区内というところで、同じ指定管理者が関わることによるメリットというのはとても大きいのではないかなと、期待させていただいております。それぞれ地域性が違うというお話はありましたけれども、従来の指定管理者の説明の中では、どうしても千城台のコミュニティセンターに利用者さんが行かれてしまったまま、こちら都賀のほうには戻ってきていないというお話もあるようなのですけれども、両方を管理されることによって、両方がより活性化するような施策がありましたら、ご説明いただけますか。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず、千城台、都賀、それぞれ同じ若葉区内なのですけれども、住まわれている方であったり、地域の特性なども違うと考えています。その中で、施設ごとに特徴を持った運営を行っていくことはもちろんなのですけれども、ちばＦＵＮくらぶという、施設をまたいで行うボランティア組織の活動を通して、この都賀のエリアと、千城台のエリアの住民が相互に交流をすることや、相互に自主事業の告知であるとか、我々の取組みを随時発信していく。千城台でも情報の発信力というのは実績

もありますので、そのノウハウを都賀にも取り入れることによって、線路の西側の住民の方々にも利用していただけるような、そういうメリットを提供できればなと思っております。

○吉田副部会長　　分かりました。

関委員、お願いいたします。

○関委員　　３点ほどお伺いしたいのですが、２ページの真ん中辺りに、私たちの基本コンセプト「つながる」、「つなげる」コミュニティセンターということなのですが、少し分かったようで分からないような感じがいたしまして、そのコンセプトについて、もう少し詳しくご説明いただきたいのが１点と。

あと、３６ページ、上のほうに健康チャレンジフェスタとありまして、特にこのエリア、高齢者が多いエリアになりますので、「健康」というワードはすごく刺さるのだろうなと思って。病院と連携と書いてあるのですけれども、やはり病院の本物の医療と連携する中で、健康に対して考えられるというのはすごいコンテンツだと思うのです。そういう中で、その下に骨密度測定とかいろいろ書いてあるのですけれども、具体的に病院さんと、どの部分の連携を想定されていらっしゃるか、お伺いしたいのが２点目です。

３点目は３８ページなのですけれども、下のほうに未利用者アンケートをされていらっしゃるということで、使っていない方、潜在需要ということで、その潜在需要をいかに取り込むことが恐らくすごく重要なテーマであるという中で、この未利用者アンケートで得られたデータを基に、未利用者に対して、どういうアプローチをされていかれるのか。その辺りのお考えについて、ご教示いただけますでしょうか。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず、コンセプトなのですけれども、「つながる」、「つなげる」コミュニティセンター、居場所のある地域社会を目指してとありまして、居場所があるというのは、単に居住する場所があるということではなくて、地域の中で役割を持つ、そういう場所を持つことが、居場所がある地域社会だと考えております。地域の中で、自分の役割、その役割というのも、何かものすごくどこかの組織の委員であるとか、そういうことだけではなくて、例えばお隣の方に「おはようございます」と挨拶するのも、ひとつ地域の中での役割だと考えております。そのような役割を持てるようにすることで、地域の中で起こることが他人事ではなくて自分事になる、自分にも関わる出来事だとして考えられることで、様々な地域の発展が行われると。そのために「つながる」、「つなげる」ということで、我々が様々な施策であり、あと、自主事業などを通し、あと、コミュニティカフェ、ちばＦＵＮくらぶ、まなぼうさい、先ほどもご質問にもあります、健康チャレンジフェスタなども通しながら、まず施設に来ていただいて、人と人がつながる場所をまず提供します。それで、少しずつ役割を持った方が、その役割を生かせる機会、人の持つ役割と機会をつなげる、そのようなコミュニティセンターにしたいと思っております。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　　特に都賀の地域ですと、利用者動向等を見ていても、東京や千葉のほうへ出ていってしまっていて、日中はほとんど地域にいない方とか、あとは高齢者で、お一人でお住まいの方ですとか、そういう方も多くいらっしゃると見受けられますので、そういった方々が地域とつながる、つなげるということをしていくのがコミュニティセンターの役割でないかなと、私は考えております。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　健康チャレンジフェスタなのですけれども、病院さんとは、まだ依頼もしていないですし、想定の範囲なのですけれども、骨密度の測定ですとか、医学的な部分、あと、理学療法士の方をご紹介いただいて、その測定したデータを基に、いろいろ相談であるとか講義をしていただくことで、より健康を身近に感じていただけるような、そのような連携を考えております。

あと、未利用者アンケートなのですけれども、まず、未利用者がなぜ利用されないのかということが、おそらくメインの質問になっていくのではないかと思うのですけれども。その中で我々が行ってきた過去の未利用者アンケートでは、ここの施設の中で何をしているのか分からないと、何ができるのかも分からない、あることも知らないという方もいらっしゃると思うのです。実際に未利用者アンケートをしてみてからにはなるのですけれども、そのようなご意見があった場合には、まず、我々は施設を知ってもらうための周知活動、更に施設に来てもらう、そのために気軽に来館していただけるような施策。あとは様々な自主事業を行うことによって、多様な興味、趣味を持たれる方に対して、何か１つでもその人の琴線に触れるような事業などを提供する、そのような形で未利用者アンケートは活かしていきたいと思っております。

○関委員　　よく分かりました。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　　健康チャレンジフェスタにつきましては、実際に実績がございまして。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社菅沼　　長沼コミュニティセンターの所長をしているのですけれども、病院さんと実際に健康チャレンジフェスタをやっていただいたのです。病院さんから、今、言いました理学療法士の方とか、保健師の方とか、来ていただいて。今、言った骨密度測定とかの測定をやった後に、理学療法士の方が、その結果、どうやったら今後、健康を維持できるかというのをレクチャーするというような形です。

○関委員　　長沼でうまくいったので、それを水平展開するという、そういう考えですか。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社菅沼　　そうです。

○関委員　　分かりました。ありがとうございました。

○吉田副部会長　　秋元委員、いかがですか。

○秋元委員　　少し認識が違うと思うのですが、私は低廉で質のいいサービスを提供するということが前提だと思うのです。そういう意味で、２９ページの利用料金の設定のところで、まずは利用者には受益者負担の原則を理解して云々と、こういう押し出しの仕方をしているのです。これは少し気になります。確かに諸室の利用料等々は現行、現在と変わらないのですけれども、例えば、４８、４９の自主事業のところを見ますと、ご提案いただいている各者の提案の中で一番こちらが高いのです。そこの基本的な考え方のところと、この辺りの額が高い、ほかのところと比べると高い設定になっている、その辺りを関連してご回答いただけるのであれば。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず、公共の施設で低廉で質がいいものというのは、我々も当然重々承知しておりまして。様々な機会を提供していく中で、どうしても自主事業でいいますと、原価がかかってしまうものなどもあります。低廉なものもあれば、料金が確かに２千円と高額なものもあるのですけれども、その２千円という価格に対しての価値を提供することでご理解をいただけないかと。その価値に見合わないと利用者

の方が判断すれば、その事業自体、当然利用者も参加されることもないでしょうし、徐々になくなっていくようなものになるかと思います。そのようなことにならないために、我々は価値と価格が見合った、それでいて公共性のある、価値に対して低廉な料金で提供していきたいと考えております。

○吉田副部会長　　私からお伺いさせていただきたいと思います。

様式第２５号の収支予算書についてです。今回、指定管理料が市からの提示に比べるとかなり削減してご提案いただいているのかなと認識しております。（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）その中で、こういった５年計画で、どのような根拠で算定されて、２千万円という大きな金額を削減できるとされたかの根拠について、もう少しご説明をいただければと思うのですが、お願いいたします。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず収入については、稼働の目標に合わせて利用可能区分数から稼働率を乗じることで、実際に想定される区分数を算出しております。そこに、それぞれの諸室の単価を掛けることで積み上げて作成しました。

費用につきましては、我々が取得した見積りですとか、あと、現在管理されているアクティオさんの過去の平均等から算出しております。そこに我々独自の取組みに係る費用であるとか、そういったものを加算いたしまして、このような金額になっておりますので、十分達成できるような内容かなと思っております。

○吉田副部会長　　分かりました。ありがとうございます。

ほかにご質問はいかがでしょうか。

関委員、いかがですか。

○関委員　　大丈夫です。

○吉田副部会長　　地域特性につきまして、皆様、十分確認されているのかなと思うのですが、例えば、体育館につきましても、千城台であればスポーツ施設はジムですので、稼働率はかなり高めやすい。実際、皆様がやられている中で、どんどんと上がっていると拝見しているのですが、こちらは体育館で、なかなか利用率が上がらない特性が高いと思うのです。その点について、体育館のことも、５１ページですか、かなり細かく区分を区切りながら人数を計算して、成果指標を高めていくような計算をされていらっしゃるのかなと拝見しているのですけれども、より具体的に利用率を高めていくために、どのような方策を考えていらっしゃいますか。

○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず、今現在、管理運営されているアクティオさんは、体育館の利用の種目を曜日ごとに決められているかと思うのですけれども、我々が管理をしましたら、まず、それを基に、どのような利用が、どの時間帯に、どのような曜日に多いのかというようなことを、もう一度見直しをしまして、利用者の不利益にならないように、更に利便性を高められるような提案ですとか、新たな種目の導入ですとか、そういったものを考えたいなと思っております。

あと、自主事業で体育館で使用するバドミントンのラケット、シャトル、卓球のセット、バスケットボールなどをレンタルする自主事業も考えておりますので、手ぶらで来て、楽しんで、そのままお帰りいただけるというところも、利用促進の策としては考えております。

○吉田副部会長　　ありがとうございます。
　関委員、よろしくお願いします。
○関委員　　本日の出席者一覧表を拝見すると、わくわく企画室、他社にはないようなユニークな組織がございまして、このわくわく企画室の指定管理者に係る役割というか、どういう形で携わっていらっしゃるのか、お伺いできればと思うのですが。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　　私、わくわく企画室の課長をやっております椿谷です。
　基本的には、私ども会社が「わくわくの“わ”を広げよう」ということで、自分たちもわくわくしながら、周りの人をわくわく、自分たちがわくわくしていないと周りもわくわくしないだろうという考えの中で、わくわくしながら事業をやろうということで、わくわく企画室という名前なのですけれども、ほかの会社さんでつけるとなると、おそらく新企画事業部とか経営企画室とか、そういった部分を担っております。
　「提案書」につきましても、基本的には現地でやるのですけれども、データの調査ですとか、あと、こちらのワードの文を整えたりですとか、積算の確認ですとか、そういったことをやっております。
○関委員　　それと地域性もかなり細かく分析されていらっしゃいましたけれども、そうしたものをされていらっしゃると。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（椿谷）　　そうです。現地と両方でやっておりますけれども、私も本社は東京ですけれども、視察に何度か伺ったりということをしております。
○関委員　　分かりました。ありがとうございました。
○吉田副部会長　　地域の分析の中で、高齢者が多い、外国人が多いという話もして、実際の利用者、やはり高齢者の方が多いのかなというところで、若い層の掘り起こしをしていかないと、なかなか増えていかないというのも、既に分析されているかと思っております。皆さん、小学生や、あとはお母さん方、赤ちゃんがいるような、そういった世代ではあるのですが、中高生となると、皆様手薄になりがちなのかなと思っております。そうはいっても、若葉区内、高校、大学もありますので、そういった世代に対して、どんなアプローチを考えていらっしゃいますか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　まず、施設のことをより知ってもらうために、Ｙｏｕ　Ｔｕｂｅのチャンネルで発信をしたりということはもちろんやっていきます。あと、自主事業で、寺子屋というか、夏休みに学習するためのスペース、自主学習をするためのスペースなど、こちらで部屋を貸し出すというようなことも考えておりますので、そのような中で、交流が生まれて利用していただけるような形になればなと思っております。
○吉田副部会長　　今の「寺子屋」というのは、４９ページの２６番の加曽利貝塚とかとは違ってというお話ですか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　すみません、今の寺子屋という言葉が違いますね。７番の夏休み自習教室です。このようなところで、施設にまず親しみを持っていただきながら、使っていただけることを考えていきたいと思います。
○吉田副部会長　　実際にこういったものをほかで展開されていると、若い世代が結構来ているという実感が実績としてございますか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　我々が管理している蘇我コミュニティセンタ

ーとハーモニープラザ分館でも同様の取組みをしておりまして、利用者もたくさんおられますし、中には中高生だけではなくて、大人の方が自分の学び直しであるとか、そういったことに活用されたりするケースもありますので、多様なコミュニティをつくれるのかなと思っております。
○吉田副部会長　　そこは自習室として来るのですか､それとも教える方も誰かしら居て、アドバイスされるような形までつくっていらっしゃるのですか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　今は自習教室です。
○吉田副部会長　　分かりました。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社菅沼　　ボランティアも一応募集していまして、ボランティアで参加してくださる方もいらっしゃいます。
○吉田副部会長　　やはりいらっしゃいますよね。なかなか学習ボランティアがいないと学びたい方もヒントがもらえない厳しい部分があるので。また同じようにやられていく中で、学習ボランティアみたいな形でお願いしていくということですか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社菅沼　　そうです。
○吉田副部会長　　ありがとうございました。
　いかがでしょうか。ほかにご質問はございますか。
　髙山委員、大丈夫ですか。
○髙山委員　　はい。
○吉田副部会長　　あと１分程度お時間があるようなので、最後、皆様、言い残したこととかアピール、再度あればお聞きしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。
○Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ株式会社（高藤）　　我々、千城台コミュニティセンターを運営してきたノウハウも含めて､それを都賀に生かすことで市民の皆様にとって､より良い施設、より良い地域づくりの一助になる、そういった思いで今回公募に参加させていただきました。今、申し上げたことをきちんと実行して、市民の方に還元できるように、よりよい施設運営に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
○吉田副部会長　　以上でよろしいですか。
　ありがとうございました。
　では、以上をもちましてヒアリングを終了したいと思います。Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体の皆様、ありがとうございました。
　それでは、退室をお願いいたします。
［Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体　退室］
○吉田副部会長　　それでは、委員の皆様は今のヒアリングを踏まえて、５分程度で採点をお願いします。
［仮採点］
○吉田副部会長　　では、続きまして、ヤオキン商事株式会社について、審査を行いたいと思います。
　まず、事務局であらかじめ採点した一部審査項目につきましてご説明をお願いいたします。
○地域づくり支援室職員　　それでは、ヤオキン商事株式会社の一部審査項目の採点結果について、ご報告させていただきます。

再度、当日採点用の資料３－４「採点表」をご覧ください。
まず、２の（１）同種の施設の管理実績」ですが、同種の施設の管理実績があることから、５点といたしました。
次に、５の「（２）管理経費（指定管理料）」ですが、提案された管理経費の額を所定の算式に当てはめた結果、加算点が１点となったことから１６点といたしました。
次に、６の「（１）市内産業の振興」ですが、市外業者であることから０点といたしました。
次に、６の「（３）市内雇用への配慮」ですが、施設従事者に占める市内在住者の割合が５割以上８割未満であることから、２点といたしました。
最後に、６の「（４）障害者雇用の確保」ですが、法定雇用率を達成していないため０点、施設において障害者を１人以上雇用する場合であるため１点であることから、合計して１点といたしました。
以上でございます。
○吉田副部会長　　ありがとうございます。
ただいまのご説明について、何かご質問ございますか。
（なし）
○吉田副部会長　　では、ヤオキン商事株式会社のヒアリングを行いたいと思いますが、先ほどと同様に、「採点表」の２の「（２）団体の経営及び財務状況」について、私から計算書類等を基にご説明いたします。
（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
○吉田副部会長　　では、ヤオキン商事のヒアリングを行いたいと思います。ヤオキン商事の皆さんをこちらへご案内してください。
［ヤオキン商事株式会社　入室］
○吉田副部会長　　それでは、これからヒアリング行います。よろしくお願いいたします。
今から１０分間で、本日の出席者の紹介と提案内容について、簡潔にご説明をお願いします。ご説明が終わりましたら、当部会の委員から質問させていただきますので、お答えいただきますようお願いいたします。お時間の関係もありますので、着座のまま、お進めください。よろしくお願いいたします。
○ヤオキン商事株式会社（伊藤）　　ヤオキン商事社長の伊藤でございます。
所長予定者の増子でございます。
副所長予定者の荒井でございます。
本社の施設管理課、田中でございます。
事業企画課、鈴木でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。
市民と共に、市民のために、一緒にまちづくりをしていく、これが当社のモットーです。市民とは誰か。現在利用している人も、利用していない人も、市民だと考えております。高齢化が進む中で、利用している人にはもっと楽しんでもらえるように、利用していない人には興味を持って利用したくなるような仕掛けを施していきます。サークルの中に入って活動することも、また、１人で気楽に参加することもできるセンターを目指していきま

す。
子育て家庭には、育児のサポートとなる、ほっとできる場所や時間を提供していきます。当然、青少年にも、改修されます加曽利貝塚を起爆剤として、地域に目を向ける活動を進めていただきます。すべての年齢の市民にとって、使いやすいコミュニティセンターを目指していきます。そして、近所の市民や町会ばかりだけでなく、区全体から、いろいろの年代の人が集まり楽しんでいただけるような仕掛けをつくっていきます。その中でミニコミ誌は有効な手段だと考えております。学校や町会、商店などに取材に行ったり、ミニコミ誌を置いてもらったりしながら、つながりを強めていきます。
私ども指定管理者として、現在持っているノウハウを押しつけることはいたしません。市民と共に、市民のために、一緒になって汗を流していく、それが当社の理念です。詳細は、所長予定者の増子より説明させていただきます。
○ヤオキン商事株式会社（増子）　　所長として勤務を予定しております、増子と申します。
本日は主に施設を最大限に生かすための取組みについて、「行く」、「知る」、「あつまる」の３つの観点からご説明させていただきます。２９ページをご覧ください。
１つ目は、センターへの興味、関心を高めるための「知る」取組みです。
センターのことを多くの方に知ってもらう広報活動についてです。情報誌やＳＮＳといった紙媒体と、デジタルメディアを相互に活用してセンターの魅力を発信してまいります。情報誌については、地元商店や施設に設置の協力をいただいたり、町会、自治会にも配布や回覧にご協力いただけるよう、魅力ある有益な地域の情報誌として作成したいと考えております。そこから生まれる交流とニーズをくみ取り、新たな展開へとつなげていくきっかけにもなることを期待して活用をしてまいります。
また、センターからの距離に関係なく、都賀センターの地域すべてに対して情報発信を行い、施設の利用に結びつけたいと考えております。この表紙は職員がデザインしておりますが、これまでには、写真サークルや絵画サークルの作品を取り上げることもしております。地域への取材を通して、商店や人物の紹介をすることもあります。地域に寄り添った情報誌であること、それをコンセプトに、この地域においても地域の皆様にご協力いただきながら、親しみの持てる情報誌を作っていきたいと考えております。
２つ目は、何度でも足を運びたくなる場をつくる「行く」取組みです。３０ページをご覧ください。
これは主にセンターのフリースペースを活用した取組みです。「ロビーで脳トレ」などは思いついたときにふらっと立ち寄れて自由に行えるものです。このように、子どもから高齢世代が１人でも気軽に、何度でも利用できる居場所づくりに取り組んでまいります。
３つ目は「あつまる」、ゆるやかに集まれる取組みです。３１ページをご覧ください。
センターのある地域は、少子化が進み、高齢者が多い地域であると認識しております。現在センターで活動する団体は１００を超えておりますが、地域の特性として、ひとり世帯が多いのも特徴です。その中には、１人でセンターを利用することにハードルを感じる方もいるのではないかと考えます。この方々を利用に転じられるよう、１人で参加できる取組みを行ってまいります。いくつかご提案させていただいておりますが、その中でも、「やさいくプロジェクト」は、誰もが参加でき、地元の農家などにご指導いただきながら、

センターの中で野菜を栽培して、一人一人のゆるやかな関係づくりを生み出していく企画です。１人でも利用できるセンターづくりにも取り組んでまいります。

また、市内でも一番の高齢化率ではありますが、これはほかの地域にはない、知識と経験を持った人材が豊富な地域であるとも言えます。元気な高齢者の公共の活動に対する意識の向上を図り、ボランティア活動などの機会をつくっていくなど、その知識と経験を地域社会の中で生かせるよう、あわせて支援していきたいと考えております。

次に、３５ページをご覧ください。受託する３つの事業についてのご提案です。

この中でも、特に絵本の読み聞かせ、おはなし会の実施については、図書館業務を長年受託してきた当社の経験、そして、人材、ノウハウを最大限に生かせる事業と考えております。現在、若葉区では若年世代定住化促進プランを基に、子育ての支援事業を進めていると思いますが、コミュニティセンターは高齢者だけでなく、子どもの居場所としても重要な拠点になり得ます。センターには図書室はありませんが、幼児室をはじめ、読書の推進活動が行える部屋がたくさんあります。経験とノウハウを生かして、場所を選ばない本に触れる機会をつくり、子どもはもちろん、大人向けの読書会なども実施しながら、
３７ページに示しました、利用者の増加指標を達成できるよう取り組んでまいります。

また、目標達成のために、３９ページから示しました自主事業を効果的に実施してまいります。現在、私どもが受託している施設全体で、年間約４，２００件の事業を行っております。自主事業を通して、地域住民の皆さんがこのセンターに来ていただくことで、自身が持っていた、何か知りたい、何かやってみたいというのを具体化していくきっかけづくりに推進していきたいと思います。そのため、これまでの経験、ノウハウを生かしながら、子どもから高齢世代まで幅の広いジャンルを内容に取り入れ、グループでの交流や自己学習など、コミュニティ活動のきっかけづくりに取り組んでまいります。

また、施設に大きなパネルがついている加曽利貝塚。この歴史的な資源について、ご提案のほかに、広報面での支援を考えております。先ほど紹介した情報誌は毎月１６ページの冊子を予定しております。そのうち１ページに毎月、貝塚の情報を様々な角度から掲載し、常に当館からも発信していくことを考えております。

最後になりますが、私は公共施設の運営に携わって１０年になります。これまで学習センターをはじめ、ＮＰＯセンターなどで、地域や人、ものの魅力を伝える者として、地域と共に歩み、地域と共に成長してまいりました。行政との関わり方を学び、そして、地域との連携、協働の経験も多く重ねてきております。千葉市は初めての地になりますけれども、この地域におきましても、同様に皆様と一緒に悩み、考え、共に歩んで成長していきたい。そして地元への愛を皆様と共に育んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○吉田副部会長　　それでは、委員の皆様からご質問ございましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

お願いします。

○髙山委員　　恐れ入ります。２９ページの先ほどおっしゃった情報誌、毎月２千部発行ということですが、ページ数は聞きましたが、サイズや紙質が分かっていれば教えていただきたいことと、設置場所が地元店舗や近隣施設という、この近隣施設はどういったところをお考えか。また、自治会や町内会、公民館等への配布依頼は考えているかどうか。こ

の辺りを分かっている範囲で教えてください。
○ヤオキン商事株式会社（伊藤）　　現在、大体、１つのコミュニティセンターごとに３千部ほど作っております。町会様には回覧を含めて、それぞれ入れていただいて、見ていただくような形を取っています。それ以外に地域の商店様とか、学校様にも配ってよいところはお配りしながら、内容の中にも商店を取り上げたり、商店街を取り上げたり、町会を取り上げたり、いろいろなことをしますので、そういうところで少しずつ置いてもらうところを増やしながらやっていきます。そのような形で、最初、私ども１５年前にやったときには２００部ぐらい、４枚だったのですが、だんだん増えてきまして、今は１か所で大体３千部ぐらいのものを毎月自分たちで手作りでやっております。３年ぐらい前からフルカラーのほうがよいだろうという、今、印刷費が安いものですから、こういう形のフルカラーのもので印刷しておりますので、非常にきれいで、ご利用者からも好評を得ております。
　人件費を考えると、昔のガリ版刷りとそれほど変わらないということで、私も区役所様に提案させていただいて、こういう形で、かなりきれいなものを各センターで作っておりますので、同じようなものを作ってまいります。
○髙山委員　　ありがとうございます。
○吉田副部会長　　ほかにご質問いかがでしょうか。
　秋元委員、お願いします。
○秋元委員　　１つは３７ページ、成果指標の数値というところなのですが、施設稼働率は毎年３％引き上げて、最終的には４３％にするという、結構高い目標を掲げていらっしゃると思うのですが、この具体的な根拠といいますか、方針といいますか、その辺りを教えていただきたいということ。
　先ほど、自主事業等々の説明の中で、加曽利貝塚のことがかなり広報で位置付けられていたと思うのですけれども、自主事業には、それに関わるものがないということなので、その辺りが寂しいなという感じがするのと。
　それから、子育て事業を位置付けていらっしゃるのだけれども、結構、参加費が高いなという感じを受けるのです。ほとんど１千円を超えるということで。果たして、これでどうなのかなという疑問というか、考えています。
　それから、もう１つは最後の施設職員の雇用の安定化というところで、５１ページの収支予算案を見ますと、この５年間は賃上げがない形で推移、同じ額で推移されていますよね。この辺りはどうなのかと。こういう計上をしたのはどういう理由なのかと。職員の雇用改善といいますか、賃金の改善というか、その辺りは視野に入っていないのかどうなのか、お聞きしたいと思います。
○ヤオキン商事株式会社（増子）　　最初の４３％という点につきましては、私どもも過去の資料も拝見させていただいて、前回の市が設定された目標が４０％を超えて、４６％程度を持っていらっしゃったということも考えまして、市もそれだけの利用を見込んでいたということもありましたので、現在、今現状で事業者さんがやっているパーセントも拝見しておりますが、徐々にご希望というか、そういったものに近づけていきたいと思いましたので、少し利用者、稼働率については上げていきたいと考えていますので、このパーセントを取らせていただきました。

○ヤオキン商事株式会社（田中）　　２つ目の加曽利貝塚に関しては、なかなか書きづらかったのですが、加曽利を広報で取り上げさせていただきながら、その中で、事業をそんなにやってもあれなのですが、いろいろなイベントの中で、やはり縄文時代というものの、ちょうど日本全国で脚光を浴びていると思うのですが、そういう形でいろいろな若者たちを引きつけるような、どれがよいか分からないのですが、そういう形で来てもらう、中高生も含めて若い人たちに来てもらうというような、漠然とした考え方が１つと。

当然、あと縄文時代と環境問題に関しても、現在と縄文時代も非常に大きな環境変化があった時代で変わっていったと感じておりますので、そういう部分で現在も環境問題、大きな転機ですので、そういうふうな切り口、現在との縄文時代の切り口、そして、縄文時代の歴史としての考え方とか、そういう、大変申し訳ないのですけれども、漠然としたことを考えながら。あとは当然、加曽利でやるイベントとか、そういう広報活動もお手伝いしながらいきたいということで、中には広報の活動だけをさせていただきました。

あとは子育て事業の金額が高い、金額が１千円ぐらいという。

○ヤオキン商事株式会社（田中）　　そうですね、子育て事業、これは現在、私どもが受託している施設で行われている事業の平均的な単価でございます。ベビーヨガですとか、あとご自身の体操系ですね、リトミックですか、意外とこれは人気の高いものでして、この金額でも十分集客はあるかなと思っておりますが、ただ、そうはいっても初めての土地でもありますので、価格設定に関してはいろいろと慎重に、柔軟には考えていきたいとは思っております。

それと、先ほどの加曽利貝塚の件だけ多少つけ足しをさせていただきたいのですが、当然、加曽利貝塚は、加曽利貝塚が主体となって事業を行っていくと私ども認識しておりますので、今の時点で自主事業を組むというのは少し乱暴かなと思いまして、できればご紹介、取材を積極的にさせていただく中で関係が結んでいければ、より効果的な事業が設計できるかなとは思っております。

それと、最後に人件費です。賃金に関してなのですけれども、こちらは５か年で指定管理料の上限額が設定されているパターンのもので、平均的に賃金は振ってはいるのですけれども、ある程度のアドバンスはこの賃金総額の中でも取っておりますので、全く固定化した賃金、５年間で同じ賃金のまま雇用するということではありません。

○ヤオキン商事株式会社（田中）　　人件費に関しては毎月、私ども正社員として無期雇用で雇って教育もしている関係で、毎年、実際全社員を少しずつですが、上げさせていただくという形になります。当然、残業代も含まれてもありますので、標準化すると同時に、最初のうちは少し残業が多くなるかなとは考えておりますので、その辺りも含めて同じでよいのではないかということで、社内では同じにさせてもらいましたが、パートさんの時給も含めて、最低賃金も上がっているから当たり前のことなのですが、全体を、全員を少しずつ上げて、モチベーションを上げていくということを全社員でやらせていただいております。

以上です。

○吉田副部会長　　関委員、お願いします。

○関委員　　先ほど分析のところで、高齢者の多い地域だというお話で、そのとおりだと思うのですけれども、高齢者向けの自主事業のコンセプトについてお伺いしたいです。

高齢者の方って、私の両親などを見ていても非常にお金にシビアという側面がある反面、消費者として見ると、非常に厳しい目を持っている。要はいくら安くても興味のないものには一切お金を払わないし、多少高くても自分の興味のあるもの、品質の高いものにはお金を払うと、そういうのが高齢者だと思うのですけれども。自主事業も同じようなところがあって、ある程度、講師料を払って本格的なものを提供して、その分受益者負担を求めていくのか。もしくは、その参加料をあくまで抑えるために講師料も抑えて、ボランティアなどにお願いして、あくまで低廉な価格で提供していくのか。やり方は両方あるのでしょうけれども、御社としては、これからどちらに軸足をより置いて推進していかれようとしているのか、お考えをお聞かせいただければと思います。

○ヤオキン商事株式会社（伊藤）　うちの事業ではよく、千葉大の先生に来ていただいて講義をやっていただいています。医学系の漢方とかいろいろやりますと、高齢者の方はたくさんお見えになって。多分同じだと思うのですが、こういう公共の施設でやることに関しては先生方も協力していただいておりますので、逆にいろいろなお願い事、こういうものをやりたいということも一緒に入れながらやっていくということもございます。ただ、そうは言いながらも、毎回高いものばかりはできませんので、正直交ぜながらというのが１つあります。

あと、もう１つは、将来できればの話なのですが、高齢者はやはり高齢者だけになりやすいと思うので、もう少し親子世代と交わるような方法を、そんなにいっぺんに最初にガチャっとはいかないのですが、例えば、ラジオ体操が終わった後、駒をいじるとか。昔遊びや何かのときに、子どもたちとおじいちゃんたちが少し混じり合うとか、実際そういう活動ができているところが多いものですから。そういう場合、お金はあまりかからないのですが、そういうところで違うような形の楽しみ方。お金もかけない、そして、たまによいものをやると、その両方が非常によいのではないかなと思っております。

○関委員　わかりました。ありがとうございました。

○吉田副部会長　よろしいですか。

では、私から成果指標について、３７ページで、先ほど秋元委員からもかなり強気な数字ではないかということでご質問があったかと思いますが、根拠をもう少し詳しくお聞きしたいなと思っております。

こちらの施設、なかなか成果指標が達成できていないというのは、皆さん過去の経緯も十分お見知りおきかと思うのですが、御社では、足立区を中心に体育館の運営も多くされていらっしゃるのかなと思っております。コミュニティセンターですと、特に千葉市の場合はジム型が多くて、そうすると利用者数をどんどん伸ばしていきやすいのですが、こちらの施設は体育館というところで、なかなか苦慮されているところもございます。

そういう意味で、体育館の利用者数、成果指標を達成できる強みとか、そういったすでに成功例があって、こちらでどのような展開を考えていらっしゃるか。その辺りについて、より詳しく具体的なお話を聞ければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○ヤオキン商事株式会社（田中）　体育館は、スポーツ施設、また、体育施設なのですけれども、もう１つは、健康増進施設と見立てることも可能かなと思います。つまり、スポーツ、体育はどうしても人の好き嫌いが出るのですけれども、健康というのは、年齢も性別も関係なく、広く興味・関心事であり、人々の願いでもあるものでありますので。例

えば、個々の健康増進に資するような、個々個別に集まれる、いらっしゃっていただくような事業を展開していくということで体育館を利用するということも、地元でやらせていただいていますし、あと、子育て世代で赤ちゃんがハイハイをした段階では体育館がちょうどよろしいのです。これはかなり人気がありますので、こういった、つまりスポーツに偏らないというか、視点を少し変えれば実は誰にでもフックする施設だと思っておりますので、これを最大限利用していきたいなと思っております。
○吉田副部会長　　広い施設でハイハイなり、カタカタレース的なことができるというような意味合いですか。
○ヤオキン商事株式会社（田中）　　そうです。体育施設で最近割と先進的な事例として、アリーナ建設みたいなものが流行っているのです。床を張らないで、土で建設して、コンサートにも使えて、何でも使えて、いろいろな用途に。つまり、体育、スポーツに限定してしまえば本当にそれだけになってしまいますけれども、広く皆さんが活動できる手法をいろいろ考えて取り入れていきたいと思っております。
○吉田副部会長　　どちらかというと、体育館というこだわりよりも、あれだけの広い屋内の施設があるという捉え方で取り組まれていくという理解でよろしいですか。
○ヤオキン商事株式会社（田中）　　はい。
○吉田副部会長　　ありがとうございました。
　ほかにご質問はございますか。
　もう１点、受託事業についてです。他の事業主さんたちからは、受託事業の絵本の読み聞かせについてまで触れられていなかったのですが、しっかり触れていただいたのは、さすが図書館を多数運営されている所以だなと思いました。受託事業と自主事業の絵本の読み聞かせ、どうしても皆さんバッティングされがちで、自主事業のほうがなぜかうまくいっているようなケースも多くございます。せっかく千葉市として受託事業と指定しておりますので、しっかりそこをやっていただきたいなと思っているところです。先ほど図書館でのノウハウを生かしてとおっしゃっていましたが、具体的にどんなことをされているのか、おわかりの範囲で教えていただければと思います。
○ヤオキン商事株式会社（田中）　　読み聞かせ、通常のパターン、皆さんが大体イメージされるようなパターンもあるのですけれども、「絵本で子育て」というのを足立区でやっていまして、当然いらっしゃった方々に読み聞かせをするだけではなくて、実を言うと、読み聞かせの一番の場所は家庭だと思っているのです。ですので、来たお母さんたちに本を選ぶための考え方、あと、例えば読み聞かせの仕方なのですけれども、よく声優さんみたいに抑揚をつけて話すのがいいのかなと思われるのですが、実はそうではないのです。絵本の読み聞かせというのは、実はお母さんの素の声が一番安心感があるという、これは意外と知られていない手法だったりするのです。こういったような取組みですとか、あと、実を言うと、読み聞かせのメインのお客は、子どもではなくてお母さんだったりするのです。つまり、子育て時期というと、なかなかいろいろなところに個人で行けなかったりしますので、そこのタイミングを狙って有益な情報を提供したり、ゆるやかな参加者にコミュニケーションでコミュニティを形成したりとか、こういった手法なども取っています。
　あと、若干触れさせていただいていますけれども、大人の読書会、これも意外と人気がございまして、ぜひこれも試してみたいなと思っております。

○吉田副部会長　　分かりました。ありがとうございます。
ほかにご質問はいかがでしょうか。
関委員、お願いします。
○関委員　　施設の管理実績を拝見すると、東京都足立区でかなりの実績を有していらっしゃっていて、素人考えで言うと、やはり足立区と千葉市って、全然地域特性が違って、要は足立区で成功したものを、この地区に丸々持ってきても、うまくいくのかなと少し心配はあるのですけれども。その辺り、うまくいくのだというお考えなのか。もしくは少し、こういうふうに変えて、アレンジして、運営をしようと思っていらっしゃるのか。その辺りの地域性に着目したコンセプトは何かおありになるのでしょうか。
○ヤオキン商事株式会社（伊藤）　　私も実は３０年前から青年会議所活動をやっておりまして、足立区は、ご存じかどうか分かりませんけれども、かなりイメージが悪い区でございました。ですが、２３区の中で緑が一番多いのです。そのためにリバーベッドキャンペーン、川のキャンペーンをやったりですとか、いろいろなボランティア活動をやって、少しでもその町に合ったやり方は何かということを試してまいりました。その延長線上で非常にお困りになったときに、ちょうど昭和天皇陛下が崩御されたときに、やはりお祭りが全部中止になったのですが、新しいことをやるのにはどうしたらいいかということで、青年会議所に区からお願いがありまして、それでそのときに自分たちでお祭りをつくり上げて、今もずっと続いているという形でやっております。
そういう意味で、やはりこの地域に入って、根差して、どんなことができるかなというところを、柔軟に考えていけるのがうちの会社の強みだと思います。当然、受け持たせてもらった限りは足繁く通う。千葉県民もいるのですが、中に入って、この１５万人の市民を、区民を、どういうふうにしたら一番活性化できるのかというのを、悩んできて、今、非常に北千住を含めてよくなったと思っていますので、今もこれからまた一段上げるために、大学とか、逆に言うと地方から、昔はあり得なかったのですが、入ってきて。足立が好きだからと、まちづくりをやってくれる人たちとか、そういうボランティアの活動も実はやらせていただきながら、そういう意味では本当に、テレビで見ても苦労されているのだなというのは地方のことはよく分かっているので、都市型という中では、ぜひ試してみたい、やらせていただきたいと、そのように思っております。
○関委員　　よく分かりました。ありがとうございました。
○吉田副部会長　　お時間となりましたので、これでヒアリングは終了させていただきたいと思います。
ヤオキン商事の皆様、ありがとうございました。
では、退室をお願いします。
［ヤオキン商事株式会社　退室］
○吉田副部会長　　それでは、委員の皆様は今のヒアリングを踏まえて、５分程度で採点をお願いします。
［仮採点］
○吉田副部会長　　それでは、本日予定しておりました４者のヒアリングはすべて終了いたしましたので、この後、一旦「採点表」を事務局に回収していただきます。
４者のヒアリングを経て、既に行った採点も調整していただくことは可能ですので、お

時間を取りたいと思いますが、大丈夫ですか。
　来週、５者目のヒアリングが終了しましたら、点数を再度ご確認いただきまして、最終確定していただくようにお願いいたします。
　「採点表」につきましては、ほかの方に記入部分が見えないように裏返して机に置いていただきまして、事務局職員が回収するのをお待ちください。
［採点表回収］
○吉田副部会長　　では、皆様方のご協力によりまして、本日予定しておりました審査はすべて終了しました。ありがとうございます。
　それでは、事務局にお返しします。
○筒井地域づくり支援室長　　皆様、慎重なご審議をありがとうございました。
　以上をもちまして、令和２年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第３回若葉区役所部会の第１日目を終了いたします。
　次回は来週２９日木曜日、午前９時半から、場所が変わりまして、都賀コミュニティセンターの１階になりますので、お間違いないようにお願いいたします。
　それでは、本日はどうもありがとうございました。

【第２日】

○筒井地域づくり支援室長　　皆様、おはようございます。

皆様におかれましては、先週に引き続き、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

少し早いですけれども、非公開で傍聴の方もおりませんので、ただいまより、令和２年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第３回の若葉区役所部会、第２日目を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、若葉区地域づくり支援室の筒井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、先週同様、すべて非公開といたします。

また、恐れ入りますが、委員の皆様と職員の紹介は、本日は省略をさせていただきます。

それでは、本日も、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと存じます。

まず、机の上にございます、「次第」、本日の「席次表」、そして、「本日のヒアリング出席予定者一覧表」、その下に「委員の皆様からの事前質問に対する事業者からの回答」がついています。

次に、会議資料といたしまして、資料１から参考資料８までをフラットファイルにまとめた、「第３回若葉区役所部会資料」を先週に引き続いて、使っていきます。

それから、本日ヒアリングを実施いたします千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体の「指定申請書類」及び「提案書」を、それぞれファイルにつづってご用意しております。「指定申請書類」については、書類の分量が多いために２冊に分かれております。

また、本日メインとして使用はいたしませんが、既に先週ヒアリングを実施した４者分につきましても、採点の見直しなどをする場合にご参照いただけるように、再度お手元に準備をさせていただきました。

万が一、不足がありましたらお知らせください。

なお、Ａ３の用紙、「採点表」でございますが、こちらにつきましては、先週、皆様に４者について既に採点を行っていただいたものを２枚、裏返して半分に折って机の上に一旦お返しをしております。ご自身のものであるか、再度ご確認を念のためお願いいたします。

そして、本日の事業者の当日採点用のＡ３の表もあります。通算すると「採点表」が３枚ということになります。

資料はよろしいでしょうか。もし不足等がありましたら、途中でも結構ですので、おっしゃってください。

それでは続きまして、会議の成立について、ご報告いたします。

本日も稲垣部会長が欠席でございますので、委員５名のうち４名、半数以上の出席がありますので、「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」第１１条第７項において準用する第１０条第２項に基づき、会議は成立をしております。

なお、本日はこの後、残り１者のヒアリングを実施した後、委員の皆様の２日間の採点結果を事務局で集計し、その結果を一覧表で配布させていただきます。

そして、その結果を基に、指定管理予定候補者を第１順位から第３順位まで選定していただきますが、そのルールについて、改めてこの場を借りまして、担当より説明をさせていただきたいと思います。

○地域づくり支援室職員　　お疲れさまでございます。地域づくり支援室の三ツ目です。すみません、座ってご説明させていただきます。

第３回若葉区役所部会資料の資料３－３「選定基準」、こちらの１ページをご覧いただきたいと思います。

１ページの真ん中、「（２）提案内容審査（第２次審査）」とあるところございます。そのまま読みます。

提案書の記述内容等について、本選定基準に示す採点基準に従って、各委員が各審査項目を評価及び採点（一部の審査項目については、事務局が事前に採点し選定評価委員会に報告）し、採点結果の委員１人当たりの平均点を審査項目ごとに算出後（原則として小数第２位を四捨五入。ただし委員が４人の場合は小数第２位まで算出する）、合計して総得点を算出いたします。

こちらには「総得点」という表現で書かれてはいますけれども、「各委員の平均点の合計点」ととらえていただくほうが、より実態に近い表現になるかと思います。こちら満点は１６５点となります。

また、今回は稲垣委員がご欠席でございまして、４人での審査を行っていただいておりますので、審査項目ごとの点数はこちらに記載のとおり、小数第２位まで算出いたします。

次、本文に戻りまして、算出した総得点を基に、選定評価委員会における合議（千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第１０条第３項による多数決をいう。以下同じ。）により、最優秀提案、第１順位ですね。それから第２順位、第３順位の提案を選定します。総得点に疑義がある場合は、選定評価委員会における合議により、採点の修正等を行うことができます。

次、総得点の合計が最も高い提案であっても、個別の審査項目において管理運営の基準等に示す水準に満たない提案がある場合などは、最優秀提案とはせず、失格とする場合があります。

こちら、この「選定基準」の７から１４ページに各採点項目の記載がありますけれども、「失格の検討はしない」と書かれた項目以外で、同じく６ページの真ん中に記載があるとおりですが、過半数の委員が「Ｄ」評価、又は１人以上の委員が「Ｅ」評価をした場合、該当する事業者を失格とするかを協議していただきます。すべての委員が「Ｅ」の評価をした場合は、直ちに失格となります。

１ページに戻っていただきまして、最後ですが、なお、総得点の差が満点の１％以内であるとき（同点であるときを含む。）は、得点の高低から順位を決定することは妥当ではなく、総合的な評価を行うという観点から、総得点にかかわらず、選定評価委員会における合議により順位を決定いたします。今回、こちら満点が１６５点ですので、１％以内というのは、１．６５点以内ということになります。

また、ここでいう総得点の差とは、１位と２位の差に限らず、２位と３位の差なども含まれます。

説明は以上ですが、何かご不明な点はございませんか。

（なし）

○地域づくり支援室職員　　よろしいでしょうか。ありがとうございます。

○筒井地域づくり支援室長　　それでは、早速、これより議事に入らせていただきたいと

存じます。
　これからの議事につきましては、前回に引き続き、進行を吉田副部会長にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします
○吉田副部会長　　それでは､｢次第｣に従いまして､前回に続き議事を行ってまいります。
　事務局の集計の前に、改めて５者の候補者の点数を皆さんが確認してから事務局に提出するという流れでよろしいですか。
（異議なし）
○吉田副部会長　　本日は、議題２「千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について」、前回の続きから再開いたします。
　それでは、早速審査に入りたいと思います。
　前回から通算して５者目となりますが、千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体について審査します。
　まず、先週同様、事務局であらかじめ採点した一部審査項目につきまして、説明をお願いいたします。
○地域づくり支援室職員　　それでは本日も、事務局採点項目についてご説明させていただきます。
　本日、新たにお配りしました当日採点表の資料３－４「採点表」、通算で３枚目でございます、こちらをご覧ください。「千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体」についてでございます。
　事務局採点項目、５項目ございますが、まず、２の「（１）同種の施設の管理実績」ですけれども、こちら共同事業体での応募となりますので、各構成団体について採点を行い、それぞれの責任割合を乗じて算出した得点を合計して採点いたします。
　まず、代表企業である京葉美装は、コミュニティセンターの管理実績があることから５点、これに責任割合の８４％を掛けて４．２点。
　次に、まちづくり千葉、こちらは公の施設である千葉市市民活動支援センターの指定管理者、代表団体としての管理実績があることから３点、こちらに責任割合８％を掛けて、０．２４点。
　スワットとはぁもにぃにつきましては、実績が確認できなかったことから、それぞれ０点でございます。
　以上を合計しまして４．４４点、小数第１位を四捨五入しまして、最終的に４点といたしました。
　続きまして、５の「（２）管理経費（指定管理料)」ですが、提案された管理経費の額ですが、先週、事業者から修正があったとご報告いたしましたが、その修正後の額を所定の算式に当てはめた結果、加算点が０点となりましたことから、基礎点のみの１５点といたしました。
　６の「（１）市内産業の振興」ですが、４つの構成団体すべてが千葉市内業者であることから、３点といたしました。
　６の「（３）市内雇用への配慮」ですが、施設従事者に占める市内在住者の割合が８割以上であることから、３点といたしました。
　最後に、６の「（４）障害者雇用の確保」ですが、共同事業体としての申請でありますの

で、法定雇用率達成状況をすべての構成団体において確認し、それぞれの点数を、法定雇用者数を算出するための労働者数で按分し計算した結果として０点、施設において障害者を１人以上雇用する場合であることから１点、合計して１点といたしました。

事務局採点については以上でございます。

○吉田副部会長　　ありがとうございました。

ただいまのご説明につきまして、何かご質問はございますでしょうか。

（なし）

○吉田副部会長　　では、千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体のヒアリングを行いたいと思いますが、その前に「採点表」の２の「（２）団体の経営及び財務状況」について、本日も私から、計算書類等を基にご説明させていただきたいと思います。

（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）

○吉田副部会長　　それでは、これから千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体のヒアリングを行いたいと思います。

千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体の皆さんをこちらへご案内してください。

[千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体　入室]

○吉田副部会長　　それでは、これからヒアリングを行います。

よろしくお願いいたします。

今から１０分間で、本日の出席者の紹介と提案内容について簡潔にご説明をお願いいたします。ご説明が終わりましたら、当部会の委員からご質問をさせていただきますので、お答えいただきますようお願いいたします。時間も限られておりますので、着座のままお進めいただければと思います。

それでは、ご説明よろしくお願いいたします。

○株式会社京葉美装（国吉）　　ありがとうございます。

それでは、まずは私どもの紹介からさせていただきます。

私、京葉美装代表の国吉でございます。

そして右から順に、京葉美装の指定管理部長の三原、そして株式会社スワットの黒川社長、そしてＮＰＯはぁもにぃの長浜理事長、そしてＮＰＯまちづくり千葉の山本理事長でございます。どうぞよろしくお願いします。着座にて失礼いたします。

私ども千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体は、このような地元４法人で構成するグループです。まず、「提案書」の１１ページをご覧ください。

代表法人の京葉美装、創業６０年のトータルビルメンテナンス企業で、平成１８年から指定管理者としての実績もございます。おかげさまで、現在、千葉市内の穴川、鎌取、畑、幕張と、４か所のコミュニティセンターの指定管理者に選定いただき、４ページをご覧になっていただきたいのですが、こちらに示すとおり、このコロナ禍におきましても、４施設ともに、市とお約束した数値目標を達成させていただいております。

また１１ページに戻りまして、構成法人のＮＰＯまちづくり千葉は、千葉の親子３代夏祭りなど、千葉市を代表するイベントに参画するとともに、千葉市民活動支援センターの指定管理者にも選定されています。

１２ページに移りまして、株式会社スワットは、警備業務で豊富な公共施設の実績があるほか、千葉市、佐倉市の教育委員会とプログラミング教室、ドローン教室などの青少年健全育成も展開します。

また、ＮＰＯはぁもにぃは、障害者の働く場所の確保や、居場所づくりを行っており、京葉美装の管理運営する施設でも、清掃業務や、みつばちプロジェクト等の自主事業を、障害者とともに実施しています。

次に、１３ページに移りますが、当グループには当施設の設備担当２名のほか、京葉美装本社並びに担当のほかのコミュニティセンターの設備員、そしてまた市内の専門教育企業で高い技術や専門的資格を持った人材集団である維持管理チームを組織しておりまして、当施設をバックアップします。例えば、京葉美装本社としては、千葉市消防局のＯＢ社員による施設の自主点検などを実施しております。

次に、１７ページをご覧ください。

施設の保守管理の考え方ですが、当施設は大規模修繕後ではありますが、更なるサービス向上を目指し、修繕費と提案設備工事を５年合計で１，４００万円確保いたします。特に提案設備工事ですが、京葉美装は一級建築士事務所と建設業という強みを生かし、既に幕張と畑コミュニティセンターの２施設に、設計施工で太陽光発電装置を設置し、千葉市に寄贈、千葉市「災害に強いまちづくり政策パッケージ」にも貢献しております。当施設でも導入を提案させていただきます。このように、５年という指定管理期間にとらわれない、千葉市に貢献する姿勢を貫き継続いたします。

次に、１８ページをご覧ください。

点検体系につきましては、日常、定期、臨時、緊急の４種類の点検を行います。特に、ほかの施設の重大災害事例を即座に共有し、緊急点検を行い、同様の事故を未然に防止するようにしています。

加えて１９ページに入りますが、高い水準で維持、管理業務を行うため、年間、月間の維持の計画策定、修繕メンテナンスを実施した記録の保存、新技術の積極的な導入、長寿命化４原則の遵守などの措置を講じます。

次に飛びまして、２６ページをご覧ください。

災害発生時の緊急対応マニュアルを作成し、防災訓練や研修などで周知徹底します。すべての職員がＡＥＤ講習を受講し、ＡＥＤの使い方カードを作成、携帯し、万一の場合にも冷静で適切な対応ができるようにしています。

また、２７ページに入りますが、昨年の台風で避難所になった経験を踏まえ、２４時間体制で１週間常駐可能な体制を構築しています。市内居住者が数多く在籍する地元４法人の強みを生かします。避難所では、プライバシー確保や、快適性に加え、新型コロナウイルス対応にも配慮し、飛沫や三密防止対策の徹底、検温の自己申告による体温確認などで部屋を区分するようにいたします。

次に、３１ページをご覧ください。

受付には券売機を設置、電子マネー決済を導入し、混雑時の利用者の待ち時間の軽減、新型コロナウイルス対策の非接触決済にも対応します。

次の３２ページをご覧ください。

サービス向上策ですが、京葉美装担当施設では、接遇マニュアルを作成し、職員研修な

どで周知、徹底しています。この結果、アンケートでは接遇について、各館とも約９５％に満足、大変満足との回答をいただいており、この手法を当施設にも導入し、高い接遇満足度を確保いたします。

新型コロナウイルス対応として、受付での飛沫防止の区画、検温実施に加え、飛沫ガードアクリルパネル、加湿器も貸出備品として備えます。また、障害者や外国人にわかりやすいよう、対象自主事業などに展示や手話の導入、外国人に音声入力可能な翻訳アプリのタブレットを受付に配備します。

次に、３３ページですが、高齢者には「生涯学習無料相談窓口」を設置し、コミュニティセンター内部の充実を支援します。更に、当施設を継続的に利用していただく工夫として、既存施設で展開している「健康クラブ」を当施設でも水平展開し、健康手帳の無料配布や健康宣言の受付を行い、市民の継続的な健康づくりを支援いたします。

次に、３７ページをご覧ください。

現在、既存の４施設で展開する「ボランティア登録制度」を当施設でも導入します。自主事業での希望業務が発生した際に連絡し、都合がつく場合にご参加いただきます。担当施設共通の制度なので、他のセンターとの交流促進につながるものと考えています。

次に飛びまして、４２ページをご覧ください。

市からの受託業務の都賀コミュニティまつりですが、実行委員会を組織し、当グループが事務局を担当、更なるブラッシュアップを図ります。また、イベントについては警察や消防、民間企業など、地元近隣諸団体にも協力いただきます。

次に、４４ページをご覧ください。

数値目標ですが、令和７年度までに諸室４６．２％、体育館２万人を達成いたします。これは京葉美装が担当する、現在の幕張コミュニティセンターと同等の数値であり、町のポテンシャルとしては十分可能であると考えています。当社では毎月の定例所長会議で、具体的な各センターの諸室ごとの目標と、そして結果、それに対する方策の検証を図っております。各センターでの成功事例、失敗事例などを即座に共有し、常に「Ｐｌａｎ・Ｄｏ・Ｃｈｅｃｋ・Ａｃｔｉｏｎ」、ＰＤＣＡサイクルを回し、厳格な目標管理と飽くなき達成への追及を展開しています。

次に４６ページをご覧ください。

自主事業ですが、ご来場のきっかけづくり、多世代交流、活動促進活性化、この３つの体系を念頭に、２ページにもあります若葉区の４つのまちづくり政策をテーマに、４７ページから４９ページのテーマごとの自主事業展開を行います。

また、京葉美装が管理運営する施設で、ご好評につき継続事業として毎年開催中の東京五輪、３・１１福島復興支援、北朝鮮拉致問題、フェアトレードなどをテーマとした事業を当施設でも開催します。そして同じ若葉区内の千葉市関連諸団体の加曽利貝塚、千葉都市モノレール、千葉市動物公園、そして東京情報大学、植草学園大学とも連携した事業、更に日本サッカー協会夢フィールド、ＪＥＦユナイテッド、稲毛海浜公園の指定管理者など、諸施設とも連携し、千葉市のベイエリアと山手エリアの市民交流を図る事業も展開いたします。

最後に、表紙にも明記させていただきました「一燈照隅 萬燈照国」、当コミュニティセンターに集う方々が笑顔あふれることで、地域、千葉市、そして日本を輝かせる、「千葉市

のコミュニティセンターから日本創生！」をテーマに日々活動を展開したいと考えています。
以上、簡単ではございますが、説明を終了させていただきます。ご審議、よろしくお願いいたします。
○吉田副部会長　　ありがとうございました。
それでは、委員の皆様からご質問がございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。
○秋元委員　　３点ほど。１つは意見になると思うのですけれど、１０ページの１日の標準的な人員配置に、月４回、部長さんの巡回が入っているので、これはいかがなものかなという、これは意見です。
それから、先ほど報告を受けました成果指標の数値目標なのですが、４６．２％という水準、ほかのコミュニティセンターの実績という話なのですけれども、現状を見た上では少し高いのかなという、率直な感じを受けますので、その辺りの対策について、もう少し詳しく、よろしくお願いしたいと思います。
それから、もう１点、５１ページ以降、先ほど説明のありました事業計画なのですが、５１ページの④の４番目、「福島復興支援「ラブ福島」」、これ無料なのだけど、収入が入っている。
それから、５２ページ、上のほうの１０番目です。高校生ダンス選手権、これも無料なのに収入が入っている。
それから１３番目、合同スポーツ大会、１５０人で１千円ということですが、少し計算が違っている。
それから１８番、これは料金が１００円からとなっているので、大体これ、延べ人数で割ると、４９５円相当になるのかなと思うのですけれども。
それから２５番、無料で、これも収入が入っている。
それから、２６番目、３０人で３００円だと計算が合わないのです。９千円でしょう。
それから、その下、２７番、２００人で２千円、これも数字は合わないですね。４０万円ですよね。５４万円と書いてあるけれど。
それから３２番目、無料なのだけれども、収入に３，５００円と書いている。この辺り、計算違いなのか、あるいは無料とうたっていて、お金を取るのか含めて、どうなのだろうと感じていましたので。基本的な点だと思うので、これはしっかり説明してほしいと思います。
○株式会社京葉美装（国吉）　　ありがとうございます。それではお答えさせていただきます。
まず、４６％を超えるところの根拠ですけれども、基本的に最終年度の５年間でのということで、毎年トライ・アンド・エラーで、例えば４ページにまとめさせていただいて、畑コミュニティセンターなども稼働率はもともと低いのですけれども、ここも既にスタートから９ポイント、目標よりも６．５ポイントオーバーして達成しているということで。我々トライ・アンド・エラーで、先ほど申し上げたように、各コミュニティセンターでの情報共有をして、例えば稼働率が低いところはどうして低いのか、そして、できない理由というよりも、できる理由を所長会議で毎月検証して。例えば、そこのセンターで現在な

いけれども、ほかのセンターで、あるサークルを誘致した自主事業として開催して、そのほかのセンターで周知させて、新しいサークルをつくるとか、あとは、ふだん利用が少ない地元の高校生や大学生に参加していただく自主事業、例えば高校生ダンスパフォーマンス選手権などはいい例なのですが、東京五輪音頭にちなんで、そういったイベントで高校生を盛り上げて、使っていただく。「あ、コミュニティセンターはこんなにいい施設なのですね。」と、ふだん絶対に立ち寄らなかった方々がリピートで使っていただくとか。

あとは、私は、ロータリークラブとか地元のいろいろな法人会とかに参加していますので、そういったところとの共催事業という形で、車椅子ラグビーのイベントを組んだり、そういった、ふだん使っていらっしゃらない方があらゆることで、利用促進を図っていきたいと考え、そういったもののトライ・アンド・エラーで徐々に上げていくというような考えで、このポイント数、あえて挑戦させていただきたいなと考えています。

もともと５年前も、この都賀コミュニティセンターの千葉市さんの目標設定がこの数値でございますので、５年前の大規模改修でどこに散ってしまったかというのは、本当にわからないのですけれども、また新たに掘り起こしたいと考えております。

あと、次の各自主事業の収支なのですけれども、まず、「ラブ福島」に関しましては、入場は無料で、福島復興支援の福島県産品の販売、ほぼそういったもので、若干の販売手数料というのを頂きながら、開催に関する寄附などもありますけれども、収入がございます。福島の県産品、福島の農家さんとか、そういったところがつくったものを仕入れて、ロビーで販売させていただくということもさせていただきます。また、支出に関しては、福島民報社さんの震災の記録写真展という、毎年、記載の写真の展示会をやっているのですけれども、そういったものの宅急便の料金などの支出も出てきますので、そういったところの収支が発生しています。

それから、フェアトレードカフェに関しましても、基本的にはロビーで、現在、鎌取で先行して開催しているのですが、今、千葉市ではホームページにも出ていますけれども、フェアトレードタウンを目指していくのではないかという方向性に対して、我々は地元の指定管理者としてフェアトレードカフェという形で、地域の皆さんの意識の醸成と、あと、そういったフェアトレードというものにＳＤＧｓの一つの手段として、入っていますけれども、そういったもののことで収支という形で計上させていただいています。

そして、２５番のモノレール祭サテライト、地元のモノレール祭りなど、年に１回あるのですけれども、この間打ち合せしてきたのですけれども、やはり１日だけのイベントにどうやって集客するかというお話で。我々、地元のモノレールの御膝元のコミュニティセンターとして、そういったイベントに積極的にお手伝いしていきたいと（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
そして、動物公園に関しましても同じような形で、打合せをさせていただきまして、（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）ご協力させてもらえればということで、収支が入っている次第です。　それから、３２番のＡＥＤ講習に関しましては、様式２７号にも収支の内訳を書かせていただいたのですけど。
○吉田副部会長　　防災業者の協賛金と。

○株式会社京葉美装（国吉）　　そうです、協賛金です。基本的にはそういった防災に関するグッズの展示などもさせていただくので、防災業者さんの協賛等も含めて収支が入っているということで。数値が微妙に計算が合わないのではないかというところは、協賛とかグッズの販売ということで、ご理解いただければと考えています。

概要はそんな感じですけど、よろしいでしょうか。

○吉田副部会長　　追加の質問で、京葉美装さんからの協賛金で高校生のダンスパフォーマンスと、医師による都賀健康相談室が入られているかと思うのですが、こちら協賛金を出される意図というのは、どのようなものなのでしょうか。

○株式会社京葉美装（国吉）　　ありがとうございます。

やはり高校生に、このコミュニティセンターをたくさん使っていただきたいという意向と、あと高校生の、例えば優勝旗に私どもの名前を入れさせていただいたり、そういった形で協賛させていただくということで。

それと、もう一つの。

○吉田副部会長　　医師による都賀健康相談室に協賛すると。

○株式会社京葉美装（国吉）　　これも実は私ども、社内的な行事が一つありまして、それをコミュニティセンターで開催するということとともに、（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）共催という形でやっていくということで、その意味合いでございます。

○吉田副部会長　　ここまでよろしいでしょうか。

では、ほかにご質問ある方は。

○関委員　　京葉美装さんのコミュニティセンターの管理実績をお伺いすると、穴川、畑、幕張、鎌取、それぞれ地域性が異なるように見受けられますので、運営手法なども、全く同じというわけではないのです。これらの実績を踏まえまして、この都賀というエリアの地域性、これをどういうふうに見ていらっしゃるのか。また、この４つの施設と比べて、特に地域性を踏まえて注力していきたいとか、運用方針をお考えになっていらっしゃることがあれば、お聞かせいただきたいというのが１点になります。

もう１点は、４社事業体の強みとして、専門性が高い４社が共同で運営に当たられるというのがあると思うのです。相乗効果ですとか、プラスの化学反応とか、そういうものに期待したいところではありますけれども、４社で運営をなされることのメリットについて、具体的な事例も交えて、もう少しコメントいただけるとありがたいのですが、よろしくお願いいたします。

○株式会社京葉美装（国吉）　　ありがとうございます。

まず、この都賀の地域特性としましては、やはり農業がある程度地元でも千葉市がやっている農園とか観光農園とかですね、最近、牛の育成などの牧場もオープンしましたし、そういった地元の特性をまずは生かしたいと。そういったところとの連携。

先ほども申し上げましたとおりに、モノレールとか、加曽利貝塚、そして動物公園など、これが若葉区にあるということで、すごくこれは世界的に考えても宝であるものがありまして、そことの共通ということで、今まで使っていない利用者に対するアプローチ、こういったもので都賀コミュニティセンターをより一層活性化させたいということ。あと我々、

ほかのエリアの地域性で、それぞれの特性があるのですけれども、先ほども申し上げたように、穴川にはあるけど都賀にはない、畑にはあるけど都賀にはないという、まずどこどこにあるけど、どこどこにない、ここにはないというものを、サークルでもイベントでも誘致して、なおかつ、この地元の農業的なものを、そして、そういった地元の財産をうまく活性化させながら、この都賀コミュニティセンターのリニューアルも終わって、きれいですてきな施設ですので、そういったものを知っていただいて、活性化させていくということで。とにかく地域密着、植草学園さんとか、東京情報大学、そういったところの学生さんも取り込んで、（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）今もう鎌取で既に始めていますけれども、そういった新しい切り口をどんどん引っ張っていきたいと考えております。

それから、４社が共同でということですけれども、今までも我々、既存の４施設で協力関係がありました。ただ、それぞれの団体が今度は能動者となることによって、今まで以上に深い関わり、深い関係で、それぞれ青少年育成事業や障害者関係のものに関しても、これからどんどん特別支援学校さんとも連携を深めて、そういった職場体験が就労につながるような、そういったシステムづくりとか。あと（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）千葉大さんとの連携、地元の植草学園さん、理事長さん、事務長さんとも話していますけど、やはりそういった地元との連携を強くしていく。

そしてＮＰＯまちづくり千葉は、やはり今までのＮＰＯのネットワークを生かして、８０くらい所属していますし、ＮＰＯまちづくり千葉さん自体も、役員が地元の企業でまとまっていますので、やはりお手伝いするというよりも、我々今度指定管理者だということに対して、まちづくり千葉の役員の中には、モノレールの広告をやっている会社さんもいらっしゃいますので、ロータリーでも一緒ですので、少し空いているときに、ちょっとイベント案内してくれませんかと、気軽に言える仲でありますので、そういったことで、この４団体で一致団結してやっていきたいと。

今回のコミュニティセンターの指定管理者のために集まったということではなくて、もともと地元の２０年も３０年もやっている仲間ですと。そういった古いつながりがある。もうお父さん、おじいさんの代からつながっているということです。そういう強い結束でまとまっております。

○関委員　　分かりました。ありがとうございました。

○吉田副部会長　　それでは、私からいいですか。既に秋元委員からも稼働率について触れられているかと思うのですが、５１ページに詳しく書かれていると思いますが、特にこちらの施設は、体育館がなかなか苦戦しているところなのかなと思います。現状の利用者の状況というのも十分にヒアリングされていると思いますが、今後２万人と、かなり強気な数値を掲げられておりますので、ここの根拠というものを、もう少し丁寧にご説明いただけたらと思います。

どうしてそういうご質問をさせていただくかというと、スポーツ施設でジムのようなところですと、２０分で区切って、どんどん人数を増やしていって、コミュニティセンター

の体育施設の稼働率を上げましたという事例はとても多いのですね。ただ、こちら体育館ですので、なかなか一度に稼働できる人数というものは限られておりますし、どうしても２０分で終わりですということにもできないと思います。その点、どのように考えていらっしゃるのか、より詳しく、特にこの都賀という地域性も踏まえまして、教えていただけたらと思います。

○株式会社京葉美装（国吉）　　ありがとうございます。

まず、２万人という規模は先ほども申し上げたように、幕張コミュニティセンターとか、いろいろなところで実績は実証させていただいているのですけれども、特に自主事業でやはりコロナ禍なので、この後何人出られるか、逆に制限しなければいけないということもあるのですけど。（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）そんなに大きなＰＲしなくても自主事業で数百名単位のものが集まった。

あとは４館合同で告知しながら、我々の担当するところで回していくというような考え方で、一度にそういった自主事業ということで、人数は大きなものを考えています。

○吉田副部会長　　分かりました。

あと１分程度ですけれども、ほかの委員の方でいらっしゃいますか。

（なし）

○吉田副部会長　　では、いろいろお聞きしましたが、残り一言、最後の時間でアピールをしていただければと思います。

○株式会社京葉美装（国吉）　　私ども４団体ですね、地元の本当に今まで京葉美装が単体でやっていたノウハウをこちらでぜひ生かさせていただいて、この都賀コミュニティセンター、それから都賀周辺の皆さんのお役に立って、喜んでいただけるように、精いっぱい頑張りますので、どうぞ選考いただければと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

○吉田副部会長　　では、お時間となりましたので、以上でヒアリングを終了したいと思います。

千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体の皆様、ありがとうございました。

では、退室をお願いいたします。

［千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体　退室］

○吉田副部会長　　それでは、委員の皆様には今のヒアリングを踏まえ、先週と同様に採点をお願いいたします。

これで５者、全申請者のヒアリングがすべて終了いたしましたので、これまでつけていただきました採点についても再度ご確認いただき、点数を最終確定していただきますよう、お願いいたします。

すべての申請者について、ご自身の中ですべて同一の判断基準で採点されているかどうか、今一度ご確認をお願いいたします。

もし先週採点いただいた４者の点数について修正を行う場合には、わかりやすいよう、お手元の赤ボールペンで朱書きにてお願いしますと事務局より要望がございますので、そのようにお願いいたします。

では、今から１５分程度でお願いいたします。

点数がすべて確定しましたら、３枚すべての「採点表」を、他の方に記入部分が見えないように事務局職員に渡してください。

採点が終わった方から休憩としてください。

［採点結果集計］

○吉田副部会長　　それでは、議事を再開いたします。

事務局から、集計結果の報告をお願いいたします。

○筒井地域づくり支援室長　　それでは、報告をいたします。

まず、お手元にお配りいたしました各申請者の「採点集計表」をご覧ください。申請者は５者ですので、集計表は５枚ございます。

まず、委員のお名前は個人名を直接記入せずにランダムに並べかえて、Ａ委員からＤ委員と表示させていただいております。

「集計表」の一番下の合計欄の右端が各応募者の総得点、各項目の平均点の合計点となっております。

まず、１枚目の株式会社千葉マリンスタジアムですが、総得点が１４３．２５点でございます。

次に、アクティオ株式会社ですが、１３９．２５点でございます。

次に、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体ですが、１３８．５０点でございます。

次に、ヤオキン商事株式会社ですが、１１７．５０点でございます。

最後に、千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体ですが、１３０．２５点でございます。

なお、各項目の採点結果はご覧のとおりでございます。

ここで、２位と３位のアクティオ株式会社とＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体の総得点の差が満点の１％以内、１．６５点以内でございましたので、この後の意見交換で順位を決定していただきますよう、お願い申し上げます。

なお、０点がついた項目はございませんでした。

以上でございます。

○吉田副部会長　　今、事務局の説明がありましたとおり、この集計結果を踏まえまして、委員会の合議により順位付けを行っていきたいと思います。

各申請者の提案内容や、「選定基準」により配点が加点された項目などから、ご意見をいただきたいと思います。では、まず、第１順位を決めていきたいと思いますけれども、皆様いかがでしょうか。

まず、私から。一番点数の高い千葉マリンスタジアムなのですけれども、点数としても十分、皆様の信頼を受けられたのかなと思います。実績から言っても、スポーツ系の施設も多いですが、高洲、真砂と、コミュニティセンターの指定管理も現在も継続で行われておりますので、そういった意味でも十分実績をお持ちなのかなと思っております。

都賀、このエリアとして年齢層が高いというところはありますが、かといってスポーツなどを行っていただくにも、新しい取組みにも期待できるというところが、皆様の点数にも、安心感と新しいことへのチャレンジ、その辺りが反映された評価なのかなと感じておりますが、ほかにご意見ございましたらお願いいたします。

秋元委員、いかがですか。
○秋元委員　　いや、マリンスタジアムで。
○吉田副部会長　　マリンスタジアムは点数が今回１位ということになっているのですけど。
いかがですか。
○髙山委員　　私もマリンスタジアムで。
○吉田副部会長　　異議がないということですね。
○髙山委員　　はい。
○吉田副部会長　　関委員、いかがでしょう。
○関委員　　１位から４位までは、ほとんど差がなかったようにも感じますが、私も点数ではマリンスタジアムが１位になっています。
一番期待したいのは、都賀はこちら稼働率がやや低迷していて、そこを引き上げる必要があるのかなという中で、やはりその入口となるのが自主事業だと思うのですが、マリンスタジアムさんのご提案の自主事業、一番面白そうだなと。高齢者の方は安かろう悪かろうだとなかなか、高齢者の方々の琴線に触れるとなると、ある程度、講師料などもかけてといったような民間の発想みたいなのが必要だと思うのですけど、そこが一番、マリンスタジアムさんが長けていらっしゃったかなという感じがしました。そういうことで、マリンスタジアムさんが１位でいいと思います。
○吉田副部会長　　地元企業ということもありますので、千葉市の状況もしっかり把握された上での提案であったという点も評価できるのかなと思います。
では皆様、ご異議が無いようですので、点数通りに、第１順位は千葉マリンスタジアムとさせていただきたいと思います。
（異議なし）
○吉田副部会長　　では続きまして、第２順位で、第３順位と総得点の点数差があまりございませんので、どちらが２位で、どちらが３位かというもので。万が一、第１順位の千葉マリンスタジアムに欠格事由等が発生した場合には、第２順位者が指定管理者となりますので、その点も考慮してしっかり第２位を決めていただけたらと思います。
点数としては第２位、現指定管理者のアクティオになりますが、いかがでしょうか。
現状把握という意味では、現指定管理者ということですので、しっかりと、現状からの継続的な運営は期待できるのかなという安心感、安定感はあったのかなと思います。
その一方で、アクティオ株式会社、全社的には数多くの指定管理を全国で展開されている中で、なかなか、マリンスタジアムほどは新しい提案というものがされていなくて、稼働率が低迷しているという点につきましても、どちらかというと頑張りますという、あまり根拠がない形での提示があったのが、残念であったかなと思っております。
一方、点数としては第３位、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体につきましては、千城台コミュニティセンターの運営、指定管理をされているという面で、若葉区の事情というものはよく把握されていたのかなと思っているのですが、（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）
ほかにご意見ございましたらお願いいたします。

○関委員　　考え方として、総得点が０．７５差なので、ほぼ同じですよね。
○吉田副部会長　　そうですね。
○関委員　　各委員がどちらを推しているか、点数で比べると、２人がＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューを推していて、１人がアクティオの方が高くて、残りの１人が同点なのです。多数決でいうと、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅさんのほうを評価している委員のほうが多いのですが､その辺りをどういうふうに考えるか｡点差はほとんどないと思うのですけれども。その辺りの判断かなと思います。
○吉田副部会長　　この集計表に書かれたＡ委員、Ｂ委員、Ｃ委員、Ｄ委員は、どの応募者も同じ方という認識でよろしいのですよね。
○地域づくり支援室職員　　はい、そのとおりです。
○吉田副部会長　　今、関委員からとても大切なポイントをいただいたかと思うのですけれども、アクティオに関しましては、Ｄ委員のみ、点数がＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューよりも高くて、１４３点と、１３点差をつけられていた。一方、Ａ委員、Ｂ委員に関しましては、点数差は６点と４点と、あまり大きくはないのですけれども、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューのほうがより良い運営をしていただけるのではないかと点数をつけられていたというところで、同点のＣ委員もいらっしゃいますけれども、そういう意味では、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューのほうがよろしいのかなと考えた委員が２人いるというところかと思います。
　おっしゃられたとおり、必ずしも点数に縛られることなく判断していいのかなとは思いますので、いかがですか。
　先ほども言ったとおりに、アクティオさんについては安心感があるものの、現状の運営のところで稼働率に対するアクションというものがやや物足りないかなというのは皆様、感じられているところかなと思います。
○関委員　　最終的に点数は公表されるのですか。
○筒井地域づくり支援室長　　公表することになります。意見についても事業者、今、協議で順位を決めておりますけれども、最終的にこういう協議があって、こういう点を考慮して､ここを２位にしたとか､ここを３位にしたというものも､公表することになります。
○関委員　　そうなると、結構、点数というのは絶対ではありますよね。それをひっくり返すとなると、相当強い理由がないと、なかなか納得しないですよね。
○筒井地域づくり支援室長　　はい。そのための「採点表」ではあるので。
○吉田副部会長　　議事録としてもホームページなどに載るわけですよね。
○地域づくり支援室職員　　どなたがおっしゃったかということは伏せますが、発言内容については、基本的にすべてホームページで公開されることになります。
○吉田副部会長　　では、すべて公表されるということですね。
○筒井地域づくり支援室長　　はい。
○吉田副部会長　　そういった経緯もありますので、必ずしも点数に縛られなくてもいい一方、点数差があるのに２位、３位の順位を変えたとなりますと、しっかりとした理由付けというものが必要なのかなと、ご認識いただければと思います。
○秋元委員　　アクティオは稼働率を上げる点では課題はあると思いますが、しっかりまとめられた提案だなと私は思いました。

○吉田副部会長　　そうですね。現状、しっかりやられていて、現実からかけ離れて、あまりにも夢物語みたいな形ではなかったのかなと。そういう意味では逆に目新しさを少し感じない部分はあったかと思います。

かといって、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューに関しましても、千城台コミュニティセンターの実績があるので、あまり華やかなものでもなく、しっかりと提案をされていた部分はもちろんあるのかなと思います。その点がＡ委員、Ｂ委員の点数が高いという評価が得られたのかなと。

ただ、点数差も、６点、４点と、それほど大きくはないので、いずれもお任せはできるだろうという判断をつけられているようにも感じますね。

○秋元委員　　点数はあまり離れていないけれども､順番どおりでいいのではないですか。

○吉田副部会長　　そうですね。項目ごとに見ても、やはりアクティオのほうが各項目の点数が高く評価されていますよね。何か一点突破で大きく点数を稼いでいる部分はないのかなと。

逆に､管理経費の部分で､Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ･オーチューの方が点数が高いのかなと。ただ、必ずしも金額で選ばれるものではなく、利用者のニーズをしっかり満たしていただける指定管理者を選ぶというところもあるかと思いますので。今、秋元委員から、点数の順位どおりでいいのではないかというご意見をいただきましたけれども、皆様はいかがでしょうか。

あと、アクティオの点数が低いのは、市内産業の振興ですが、こちらは事務局で採点されたものですね。

市内産業の振興とか、市内雇用への配慮という点では、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューのほうがアクティオより優れている部分なのかなと。

難しいですね。

○関委員　　全部で２６の採点項目があって、アクティオさんの方が点数が高いのが１３項目、ちょうど半分なんです。同点が７項目。だから、そういうことを考えると、僅差とはいえ点差があるので、点数どおりで私もいいと思います。

○吉田副部会長　　ありがとうございます。

髙山委員はいかがでしょうか。

○髙山委員　　そうですね。

○吉田副部会長　　順位どおりで。

○髙山委員　　はい。

○吉田副部会長　　では、皆様いろいろ意見は出していただきましたが、僅差とはいえ、点差があること、項目ごとで見ても点数が高い方が多いという部分も踏まえまして、現指定管理者のアクティオを第２位にさせていただきたいと思います。

３位と４位、５位につきましては、十分点数差もありますので、このまま３位はＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体とさせていただこうと思いますが、３位につきましても皆様ご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

○吉田副部会長　　あと理由をしっかり書かないといけないのですね。１位はもうできていますよね。

２位につきまして、理由といたしますと、まず、現指定管理者で継続した、安定した運営が期待できるというところが１つ挙がるのかなと思っております。（※経営及び財務状況に関する意見交換の経過については、千葉市情報公開条例第７条第３号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため、表示していません。）ほかに追加で理由付けをご提案いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

（異議なし）

○吉田副部会長　　ありがとうございます。

では、続きまして、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューを第３順位とさせていただくところの理由付けになるかと思います。

先ほど来、申し上げているとおりに、若葉区内で千城台コミュニティセンターを運営されているので、そこで若葉区の特性をしっかり認識した上での運営が期待できるというところは大きいのかなと思っております。

あとは、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューの３位の理由、先週がプレゼンテーションでしたので、皆さん思い出しながら、４位、５位とは違うところを何かいただければと思うのですけれども。

４位、５位と比べると、圧倒的に指定管理料の提案額というところで削減に寄与されている。ここは千葉マリンスタジアムが満点ですので、そこまでには至らないものの。

では、Ｆｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチューに関しましては、同区内という理由でよろしいでしょうか。もし追加で３位とする理由を挙げていただければと思うのですけれども。

４位、５位とは圧倒的に違う理由になるので、理由付けとしては、十分ですかね。

事務局としてはよろしいですか。

○筒井地域づくり支援室長　　あとは点数というのが決め手になると思います。

○吉田副部会長　　わかりました。では、まとめに入りましょうか。

附帯意見が今の理由ということでよろしいですか。

○筒井地域づくり支援室長　　附帯意見は、また別にあればということになります。基本的には附帯意見は１位の者のみに示しますけれども、例えば財務の書類がきちんとしていないので、そこは指定管理期間中にきちんとしていただきたいとか、そういう意見が、もしあればです。

○吉田副部会長　　なければなし、ということでよろしいですね。

○筒井地域づくり支援室長　　はい。

○吉田副部会長　　特段皆様、附帯意見としてつけておくべきことはございませんでしょうか。

（なし）

○吉田副部会長　　それでは、協議の結果、千葉市若葉区都賀コミュニティセンターの指定管理予定候補者とすべきものの第１順位は株式会社千葉マリンスタジアム、第２順位はアクティオ株式会社、第３順位はＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体とすることでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○吉田副部会長　　次に選定理由についてになります。

第１順位の株式会社千葉マリンスタジアムの提案内容において優れている点につきまし

てですが、市内コミュニティセンターを含め、類似施設での豊富な管理運営実績があること。また、自主事業について新しい取組みにより高齢者のみならず、新たな利用者層の発掘が期待できる。市内事業者として若葉区の特性をよく理解し、創意工夫のある自主事業の提案であったという点が評価できるのかと思います。

続きまして、第２順位のアクティオ株式会社です。点数どおりとはなりましたが、第２位となりました理由につきましては、現指定管理者として地域の特性や実情を把握し、安定した管理運営が期待できる。稼働率上昇に向けては、現状を把握した上での実現可能性が高い提案であったと言えるのかなと思います。

第３順位のＦｕｎ　Ｓｐａｃｅ・オーチュー共同事業体につきましては、同区内の類似施設の管理、運営をされているというところでの運営実績が十分にあるとさせていただければと思います。

（異議なし）

○吉田副部会長　　特に附帯意見はなしということで、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○吉田副部会長　　これらの意見につきまして、私と事務局で最終的に調整して意見をまとめてまいります。ご一任いただくことでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○吉田副部会長　　それでは、千葉市若葉区都賀コミュニティセンターの指定管理予定候補者とすべきものを、第１順位の株式会社千葉マリンスタジアムと決定いたします。

千葉市若葉区都賀コミュニティセンターの審査は以上となります。

以上で、議題２の「千葉市若葉区都賀コミュニティセンター指定管理予定候補者の選定について」の審議を終了いたします。

次に、議題３の「今後の予定について」、事務局より説明をお願いいたします。

○筒井地域づくり支援室長　　今後の予定についてご説明いたします。

フラットファイルの資料４をご覧ください。

この２日間の部会報告を選定評価委員会の横山会長に提出いたしまして、その後、横山会長から市長宛てに選定評価委員会としての答申をしていただきます。

この選定評価委員会の答申を受けまして、市は指定管理予定候補者を最終的に決定することとなります。その後、すべての申請者へ選定結果を通知し、これが１１月です。指定管理予定候補者と仮協定を締結しまして、その後１１月に開催予定の「令和２年第４回千葉市議会定例会」に指定管理者の指定議案を提出いたしまして、議決をいただけましたら、「基本協定書」を締結し、令和３年、来年度の４月から、新たな指定期間における指定管理が開始となるという流れでございます。よろしくお願いします。

○吉田副部会長　　ただいまの事務局からの説明について、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

（なし）

○吉田副部会長　　それでは、次に、議題４の「その他」について、事務局から説明をお願いいたします。

○筒井地域づくり支援室長　　議事録についてご説明いたしますが、先週及び本日の議事録につきましては、後日また皆様にご確認をお願いしたいと考えておりますので、よろし

くお願いいたします。
　以上でございます。
○吉田副部会長　　ただいまの事務局からの説明について、何かご質問、ご意見はございますか。
（なし）
○吉田副部会長　　最後に、全体を通しまして、委員の皆様からほかにご質問、ご意見等はございますでしょうか。
（なし）
○吉田副部会長　　では、皆様方のご協力によりまして、２日間の議事は、すべて終了しました。ありがとうございました。
　それでは最後に、事務局にお返しします。
○筒井地域づくり支援室長　　皆様、２日間にわたりまして慎重なご審議、どうもありがとうございました。
　以上をもちまして、令和２年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会の第３回若葉区役所部会を閉会といたします。
　委員の皆様には、本当にお忙しい中、ありがとうございました。